

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2011 年冬のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 23 弾～

2012 年 1 月



目 次

■調査概要	1
-------	---

■調査結果	4
-------	---

I この冬のボーナス

1. この冬のボーナスの手取り額	5
2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較	7
3. ボーナスの今後の見通し	8
4. 今回のボーナスの主な使い道	9
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額	13
6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額	15
7. 今年の冬のボーナスを「川柳」にすると	18

II わが家の家計

1. 家計についての現状認識	20
2. 今後の家計の見通しとその理由	22
3. 世帯の金融資産の増減	24
4. 「円高」の家計への影響	27

III わが家の生活防衛策

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況	29
2. 2012年の家計は“攻めていこう”と思うか、“守っていこう”と思うか	39
3. 2012年の家計支出に関して、どんな方針で臨むか	40
4. この冬、食費を切り詰めるための節約食材、節約メニュー	43

IV 将来のことについて

1. 2012年に活躍する、あるいは人気になると思われる「人」「もの」「場所」	44
2. 2012年のお金にまつわる「抱負や夢」	45
3. 夫がリタイアした後の「自分（妻）の夢」（最もしたいこと）	46

調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002 年 3 月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

23 回目となる今回は、2011 年冬に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の 20 歳から 59 歳の主婦 500 人

<サンプル配分>

合計	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成 23 年 12 月 9 日(金)～12 月 13 日(火)

(4) 調査項目

- ・この冬のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
- ・ボーナス手取り額の満足度(100 点満点)
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額
- ・今年の冬のボーナスを「川柳」にすると
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・2012 年の家計についての方針
- ・夫に内緒の資産保有について
- ・世帯の金融資産の増減
- ・円高が続いた場合の家計への影響
- ・この冬、食費を切り詰めるための節約食材・節約メニュー
- ・夫がリタイアした後の「自分(妻)の夢」
- ・回答者と回答者世帯の基本属性(妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等)

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

F1. 妻の年齢

（平均：39.5 歳）

サンプル数	20～ 24 歳	25～ 29 歳	30～ 34 歳	35～ 39 歳	40～ 44 歳	45～ 49 歳	50～ 54 歳	55～ 59 歳
500	13	112	56	69	89	36	96	29
100.0	2.6	22.4	11.2	13.8	17.8	7.2	19.2	5.8

F2. 妻の職業

サンプル数	正社員・公務員・自営業	パート	専業主婦
500	81	107	312
100.0	16.2	21.4	62.4

F3. 夫の年齢

サンプル数	20 代	30 代	40 代	50 歳以上
500	86	153	135	126
100.0	17.2	30.6	27.0	25.2

F4. 夫の勤務先での役職

サンプル数	役職なし	係長・主任クラス	課長クラス	部長クラス以上
500	237	128	86	49
100.0	47.4	25.6	17.2	9.8

F5. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・農林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業	金融・不動産・サービス業
500	3	32	201	19	73	59	113
100.0	0.6	6.4	40.2	3.8	14.6	11.8	22.6

F6. 世帯構成

サンプル数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代・4世代同居	親夫婦と子夫婦・自分たち夫婦と親	その他
500	130	313	34	11	12
100.0	26.0	62.6	6.8	2.2	2.4

F7. 扶養中の子ども

サンプル数	いる	いない
500	308	192
100.0	61.6	38.4

F8. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
500	206	13	101	150	30
100.0	41.2	2.6	20.2	30.0	6.0

F9. 住宅ローンの有無

サンプル数	ある	ない
500	224	276
100.0	44.8	55.2

F10. 世帯年収(税込み)

サンプル数	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上
500	51	161	133	83	72
100.0	10.2	32.2	26.6	16.6	14.4

F11. 居住地区

サンプル数	東日本	西日本
500	280	220
100.0	56.0	44.0

※東日本は北海道、東北、関東、甲信越及び静岡。

※西日本は愛知、岐阜、近畿(三重を含む)、北陸、中国、四国、九州及び沖縄。

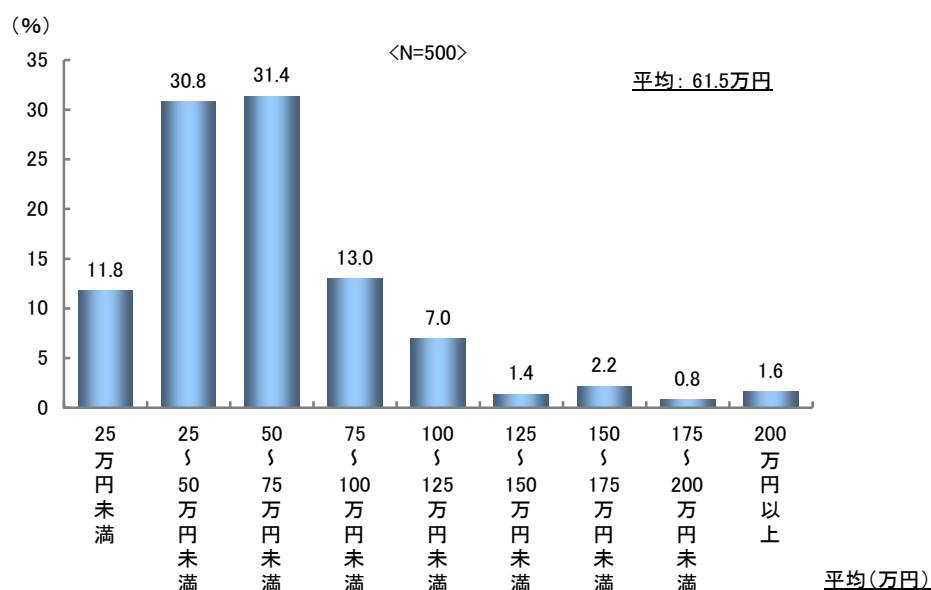
調査結果

I この冬のボーナス

1. この冬のボーナスの手取り額

この冬のボーナス平均受給額(手取り)は、平均「61.5万円」。

図 1. この冬のボーナスの手取り額



妻の年代	夫の役職	平均(万円)									
		20代	25～50万円未満	50～75万円未満	75～100万円未満	100～125万円未満	125～150万円未満	150～175万円未満	175～200万円未満	200万円以上	平均
妻の年代	20代 <n=125>	15.2	49.6	28.0	4.0	1.6	0.8	-	-	0.8	43.9
	30代 <n=125>	12.0	32.8	37.6	12.0	3.2	0.8	1.6	-	-	53.6
	40代 <n=125>	7.2	20.8	32.8	20.0	11.2	0.8	4.0	0.8	2.4	76.0
	50代 <n=125>	12.8	20.0	27.2	16.0	12.0	3.2	3.2	2.4	3.2	72.7
夫の役職	役職なし <n=237>	16.5	40.9	32.1	5.9	3.8	0.8	-	-	-	46.5
	係長・主任クラス <n=128>	9.4	30.5	32.0	21.1	3.9	0.8	2.3	-	-	57.1
	課長クラス以上 <n=135>	5.9	13.3	29.6	17.8	15.6	3.0	5.9	3.0	5.9	92.1

※『この冬のボーナス』とは2011年冬に夫が受給したボーナスを指し、妻や子どもなど他の家族が受給したボーナスは含みません。

この冬のボーナスの手取り額は、手取り額でいくらだったのでしょうか。サラリーマン世帯の主婦500名に聞きました。「50～75万円未満」(31.4%)、「25～50万円未満」(30.8%)がともに3割強で多く、合わせて「25～75万円未満」が6割強(62.2%)を占めています。以下、「75～100万円未満」(13.0%)、「25万円未満」(11.8%)などが続き、平均は「61.5万円」となっています。

・妻の年代別に受給額の平均をみると、上の年代ほど金額は高く、《20代》(43.9万円)では40万円台、《30代》(53.6万円)では50万円台、《40代》(76.0万円)、《50代》(72.7万円)では70万円台と大きな差があり、特に《40代》以上と《30代》以下で大きなギャップが生じています。

- ・夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》(46.5 万円)、《係長・主任クラス》(57.1 万円)で、《課長クラス以上》(92.1 万円)で大きな差が出ます。

■昨冬の調査結果との比較■

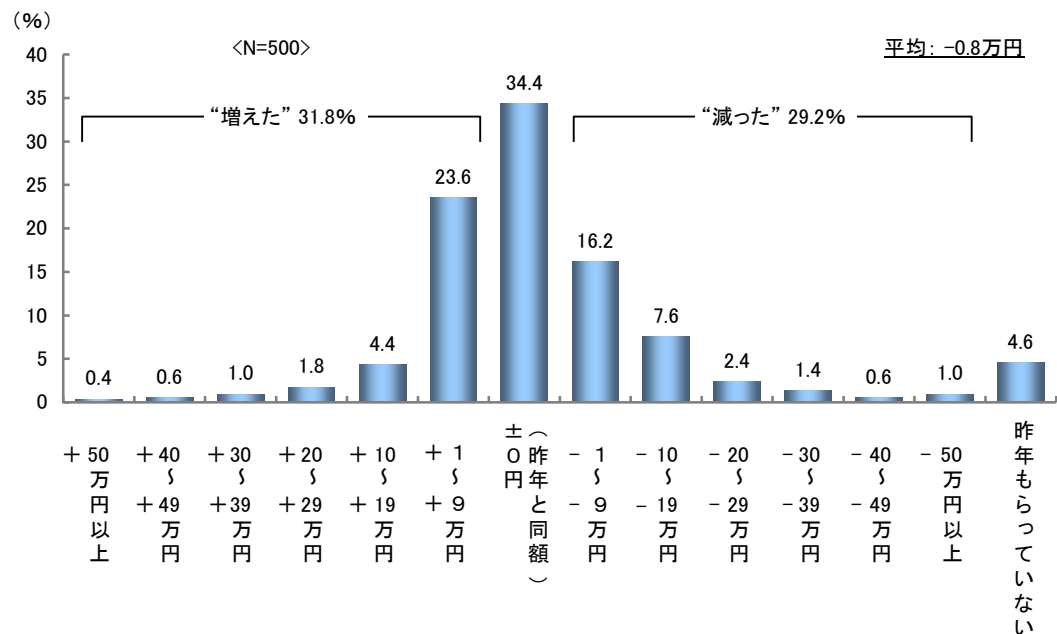
平均額は昨冬「62.1 万円」→今冬「61.5 万円」で、昨冬に比べ 6 千円ほど減少しています。

2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較

“増えた”(31.8%)と“減った”(29.2%)がほぼ同じ割合で、増減の平均も「-0.8 万円」とわずかに減った程度。

※“増えた”は、「+1~9 万円」から「+50 万円以上」の合計を表します。“減った”は、「-1~9 万円」から「-50 万円以上」の合計を表します。

図 2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較



妻の年代	20 代 <n=125>	0.8	0.8	0.8	-	7.2	36.8	25.6	14.4	4.0	1.6	-	-	-	8.0
	30 代 <n=125>	-	-	0.8	2.4	2.4	28.8	33.6	20.0	4.8	0.8	-	-	0.8	5.6
	40 代 <n=125>	-	0.8	-	3.2	4.0	16.8	40.0	14.4	10.4	4.8	2.4	1.6	0.8	0.8
	50 代 <n=125>	0.8	0.8	2.4	1.6	4.0	12.0	38.4	16.0	11.2	2.4	3.2	0.8	2.4	4.0
夫の役職	役職なし <n=237>	0.4	0.4	0.8	0.8	4.2	30.4	31.6	16.9	5.1	0.8	-	-	1.3	7.2
	係長・主任クラス <n=128>	-	-	0.8	-	3.9	21.1	32.8	18.0	9.4	4.7	3.1	1.6	0.8	3.9
	課長クラス以上 <n=135>	0.7	1.5	1.5	5.2	5.2	14.1	40.7	13.3	10.4	3.0	2.2	0.7	0.7	0.7

この冬のボーナスは、昨年冬のボーナスと比べて増えたでしょうか、減ったでしょうか。

「+1~+9万円」(23.6%)など“増えた”(31.8%)という人が3割強で、「-1~-9万円」(16.2%)など“減った”(29.2%)とほぼ同じ割合となっています。増減の平均も「-0.8 万円」と変化はわずかです。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えた”人の割合が高く、《20 代》(46.4%)は《50 代》(21.6%)の2倍以上の割合となっています。
- ・夫の役職別にみると、役職が下の人ほど“増えた”人の割合が高く、《役職なし》(37.1%)の人では《課長クラス以上》(28.1%)より 10 ポイント近く高くなっています。

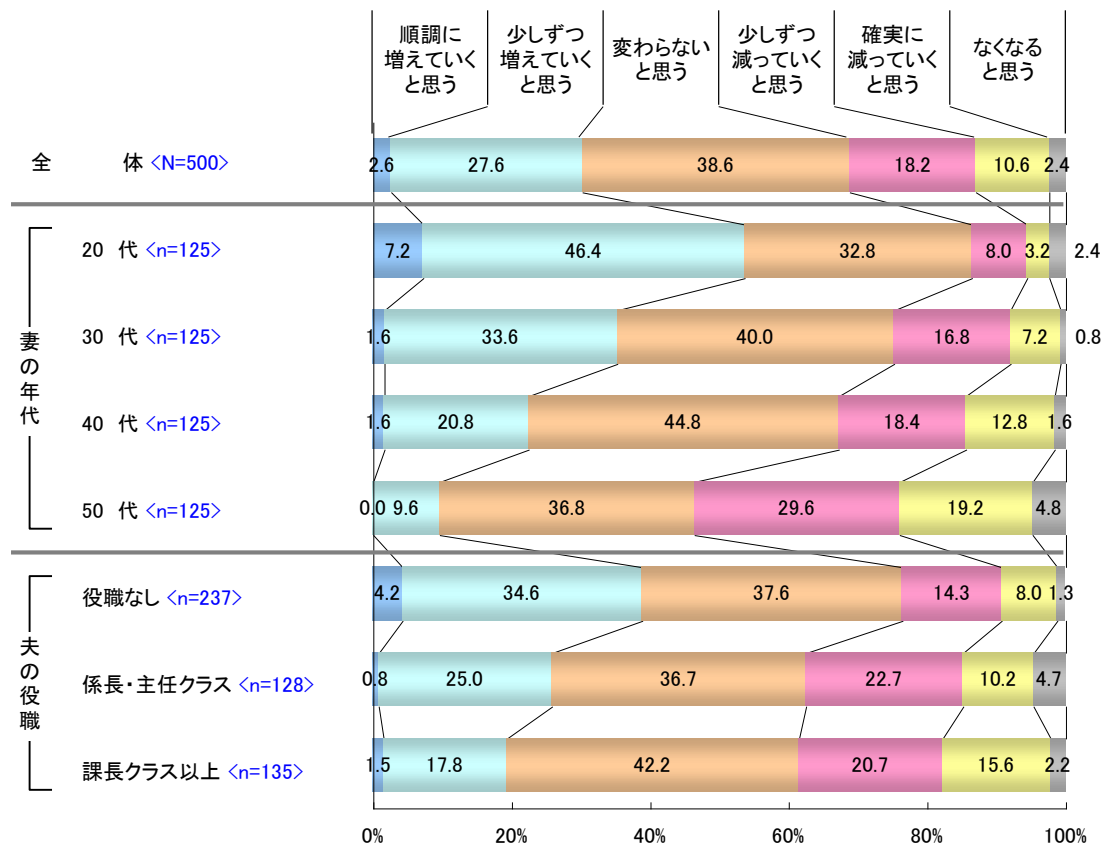
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、“増えた”(33.8%→31.8%)、“減った”(31.4%→29.2%)のいずれも昨冬よりわずかに減っています。増減の平均は「-0.9 万円」→「-0.8 万円」とあまり変わっていませんが、微減の傾向が続いています。

3. ボーナスの今後の見通し

「変わらないと思う」(38.6%)が4割近くを占め、“増えていく”(30.2%)と“減っていく+なくなる”(31.2%)もほぼ同率。

図 3. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いたところ、「変わらないと思う」(38.6%)が4割近くを占めており、「順調に増えていくと思う」(2.6%)と「少しずつ増えていくと思う」(27.6%)を合わせた“増えていく”(30.2%)と、「少しずつ減っていくと思う」(18.2%)、「確実に減っていくと思う」(10.6%)、「なくなると思う」(2.4%)を合わせた“減っていく+なくなる”(31.2%)もほぼ同率となっています。

・妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えていくと思う(順調に+少しずつ)”という割合は高く、《50代》(9.6%)では1割を下回っているのに対し、《40代》(22.4%)では2割台、《30代》(35.2%)では3割台、そして《20代》(53.6%)では半数を超えています。

・夫の役職別にみると、《役職なし》では“増えていく”(38.8%)が“減っていく+なくなる”(23.6%)を上回りますが、《係長・主任クラス》《課長クラス以上》では、“増えていく”(順に 25.8%、19.3%)が、“減っていく+なくなる”(同 37.5%、38.5%)を下回る結果となっています。

■昨冬の調査結果との比較■

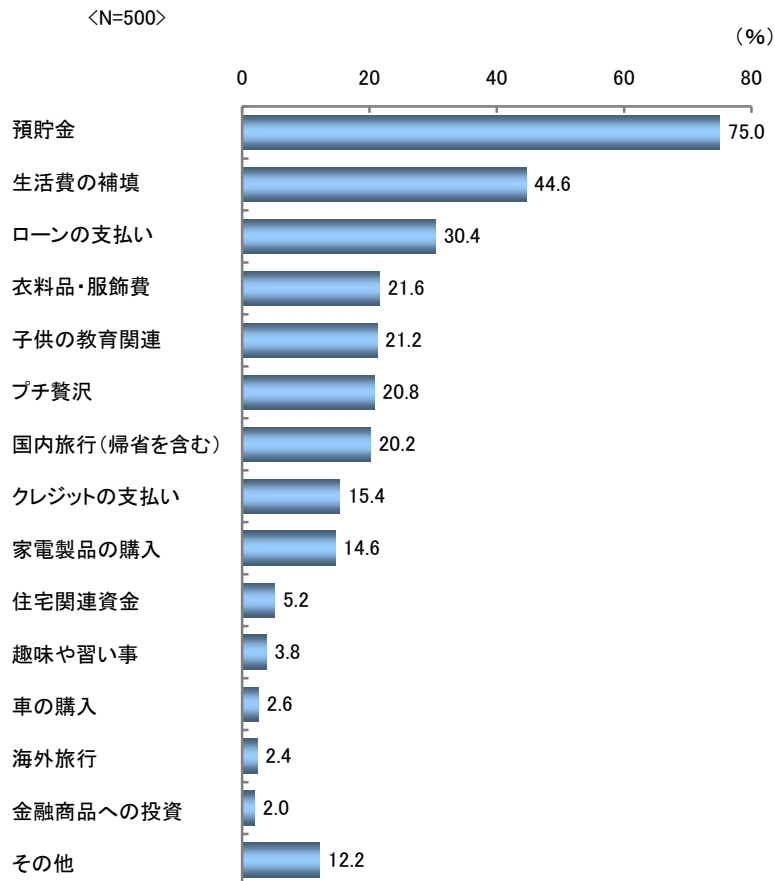
昨冬の調査結果と比べると、“増えていくと思う”(29.6%→30.2%)、“減っていく+なくなると思う”(33.8%→31.2%)ともにわずかな変化にとどまっています。

4. 今回のボーナスの主な使い道

「預貯金」(75.0%)が突出して多く、次いで、「生活費の補填」(44.6%)、「ローンの支払い」(30.4%)と“将来への備え”“家計のやりくり”に使う人が多い。

●ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳は、「預貯金」(41.0%)が4割を超える。

図 4. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの主な使い道は、「預貯金」(75.0%)を4人に3人があげて、突出して高い割合となっています。次いで、「生活費の補填」(44.6%)、「ローンの支払い」(30.4%)が続き、“将来への備え”“家計のやりくり”に使う人が多くなっています。

以下は、「衣料品・服飾費」(21.6%)、「子供の教育関連」(21.2%)、「プチ贅沢」(20.8%)、「国内旅行(帰省を含む)」(20.2%)、「クレジットの支払い」(15.4%)、「家電製品の購入」(14.6%)といった使い道があげられています。

表 1. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

(%)

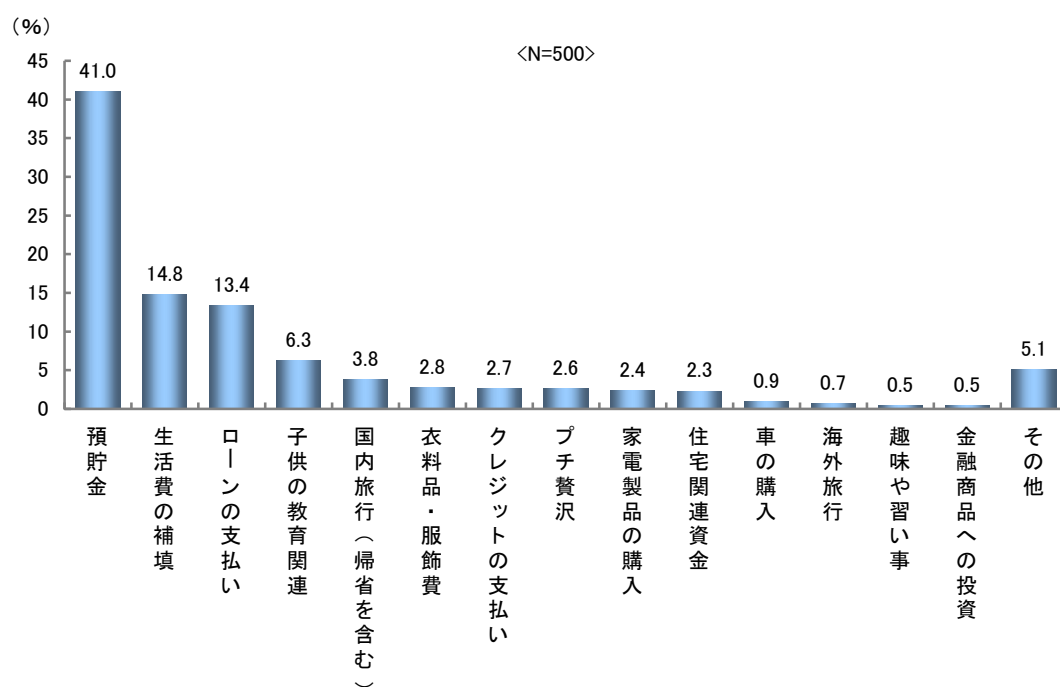
	サ ン プ ル 数	預 貯 金	生 活 費 の 補 填	ロ ー ン の 支 払 い	国 内 旅 行 （ 帰 省 を 含 む ）	プ チ 贅 沢	子 供 の 教 育 関 連	家 電 製 品 の 購 入	衣 料 品 ・ 服 飾 費	ク レ ジ ット の 支 払 い	海 外 旅 行	住 宅 関 連 資 金	趣 味 や 習 い 事	金 融 商 品 へ の 投 資	車 の 購 入	そ の 他
全 体	500	75.0	44.6	30.4	20.2	20.8	21.2	14.6	21.6	15.4	2.4	5.2	3.8	2.0	2.6	12.2
妻の年代																
20 代	125	86.4	39.2	22.4	22.4	27.2	7.2	14.4	21.6	8.8	3.2	4.0	3.2	1.6	3.2	10.4
30 代	125	82.4	38.4	26.4	23.2	16.8	22.4	21.6	25.6	15.2	2.4	3.2	4.8	3.2	3.2	10.4
40 代	125	72.8	51.2	40.0	15.2	19.2	32.0	10.4	19.2	20.8	1.6	7.2	1.6	2.4	2.4	9.6
50 代	125	58.4	49.6	32.8	20.0	20.0	23.2	12.0	20.0	16.8	2.4	6.4	5.6	0.8	1.6	18.4
子供																
いる	308	73.4	48.4	35.1	21.1	18.8	30.5	15.9	24.4	18.2	1.6	4.9	3.2	2.6	2.9	11.0
いない	192	77.6	38.5	22.9	18.8	24.0	6.3	12.5	17.2	10.9	3.6	5.7	4.7	1.0	2.1	14.1
ローン																
ある	224	67.4	49.6	56.7	16.1	18.8	24.6	15.2	23.7	22.3	1.8	5.4	4.0	2.2	3.1	14.3
ない	276	81.2	40.6	9.1	23.6	22.5	18.5	14.1	19.9	9.8	2.9	5.1	3.6	1.8	2.2	10.5
世帯年収																
600万円未満	212	74.5	53.3	28.3	17.0	21.7	13.7	12.7	22.2	10.8	0.9	3.3	3.3	0.9	2.8	12.3
600～800万円未満	133	75.9	43.6	30.8	20.3	23.3	26.3	24.1	21.1	19.5	1.5	9.0	4.5	1.5	3.0	9.0
800～1000万円未満	83	75.9	39.8	34.9	25.3	18.1	24.1	12.0	27.7	22.9	1.2	6.0	4.8	3.6	—	14.5
1000万円以上	72	73.6	26.4	30.6	23.6	16.7	30.6	5.6	13.9	12.5	9.7	2.8	2.8	4.2	4.2	15.3
受給額																
50万円未満	213	69.5	46.9	24.9	14.1	16.9	11.7	14.1	17.8	11.7	—	3.3	3.3	0.9	1.9	11.7
50～100万円未満	222	79.7	48.2	34.2	22.5	23.9	24.8	16.2	23.4	18.0	2.7	6.3	4.1	1.8	3.6	13.1
100万円以上	65	76.9	24.6	35.4	32.3	23.1	40.0	10.8	27.7	18.5	9.2	7.7	4.6	6.2	1.5	10.8

- ・妻の年代別にみると、「預貯金」は《20 代》(86.4%)、《30 代》(82.4%)で8割台と高く、将来のために備えておこうという意識が強いようです。一方、「生活費の補填」は《40 代》(51.2%)、《50 代》(49.6%)で高くなっています。
- ・独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、「生活費の補填」「ローンの支払い」「子供の教育関連」は《いる》人の方が高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、住宅ローンが《ある》人は「ローンの支払い」(56.7%)に加え、「クレジットカードの支払い」(22.3%)も、《ない》人に比べて高くなっています。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収に関わらず「預貯金」は高くなっています。また、世帯年収が低い人ほど「生活費の補填」が多く、《600 万円未満》(53.3%)では半数を超えています。
- ・ボーナス受給額別にみると、受給額が多い人ほど「預貯金」「ローンの支払い」「国内旅行(帰省を含む)」「子供の教育関連」「衣料品・服飾費」などが多い傾向にあります。一方、「生活費の補填」は、《100 万円以上》(24.6%)支給された人では少なめです。

■昨冬の調査結果との比較■

「プチ贅沢」(25.4%→20.8%)、「家電製品の購入」(20.4%→14.6%)、「海外旅行」(5.8%→2.4%)など、全般的に減っている項目が多く、増えているのは「預貯金」(70.6%→75.0%)くらいです。使い道は節約の方向に動いていることがうかがえます。

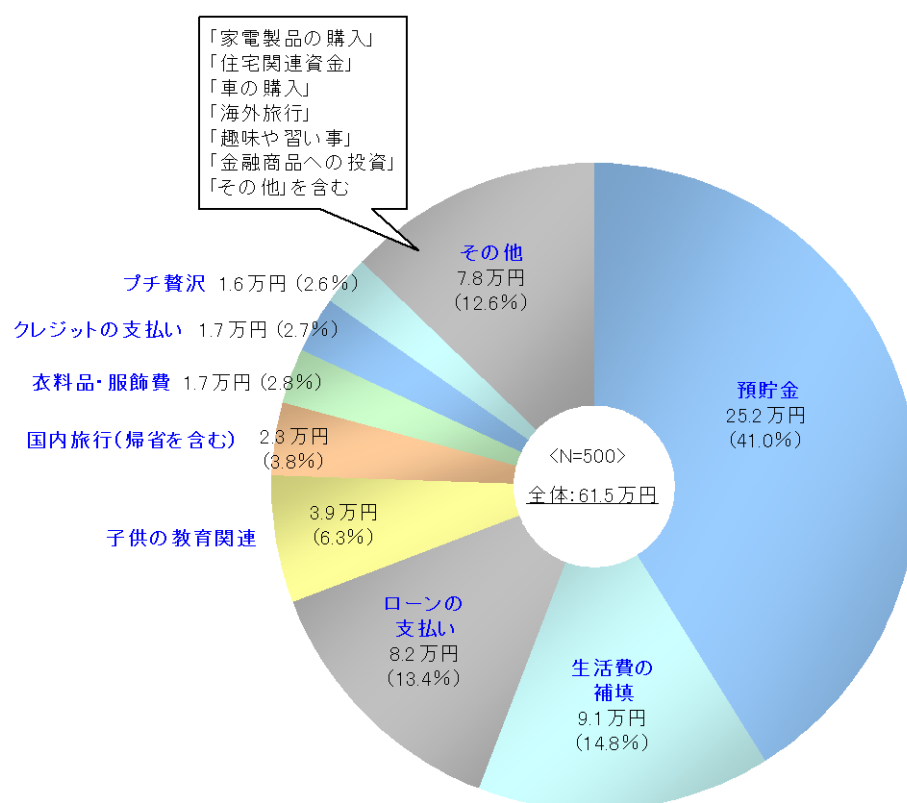
図 5. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値）



次に、冬のボーナス全額を「100%」とした場合、それぞれの使い道が何%を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値）。

やはり「預貯金」が断然多く、ボーナス全額の4割強(41.0%)を占めています。以下、「生活費の補填」(14.8%)、「ローンの支払い」(13.4%)の順で、このトップ3で7割近く(69.2%)に達します。

図 6. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（この冬のボーナス平均手取額 61.5 万円を総額とし、金額に換算）



参考までに、今回の冬のボーナスの平均手取額「61.5 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかを表してみたところ、トップの「預貯金」は 25.2 万円となりました。

※例えば「国内旅行(帰省を含む)」(2.3 万円)は実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でなると、一家庭当たり 2.3 万円に当たることを示しています。

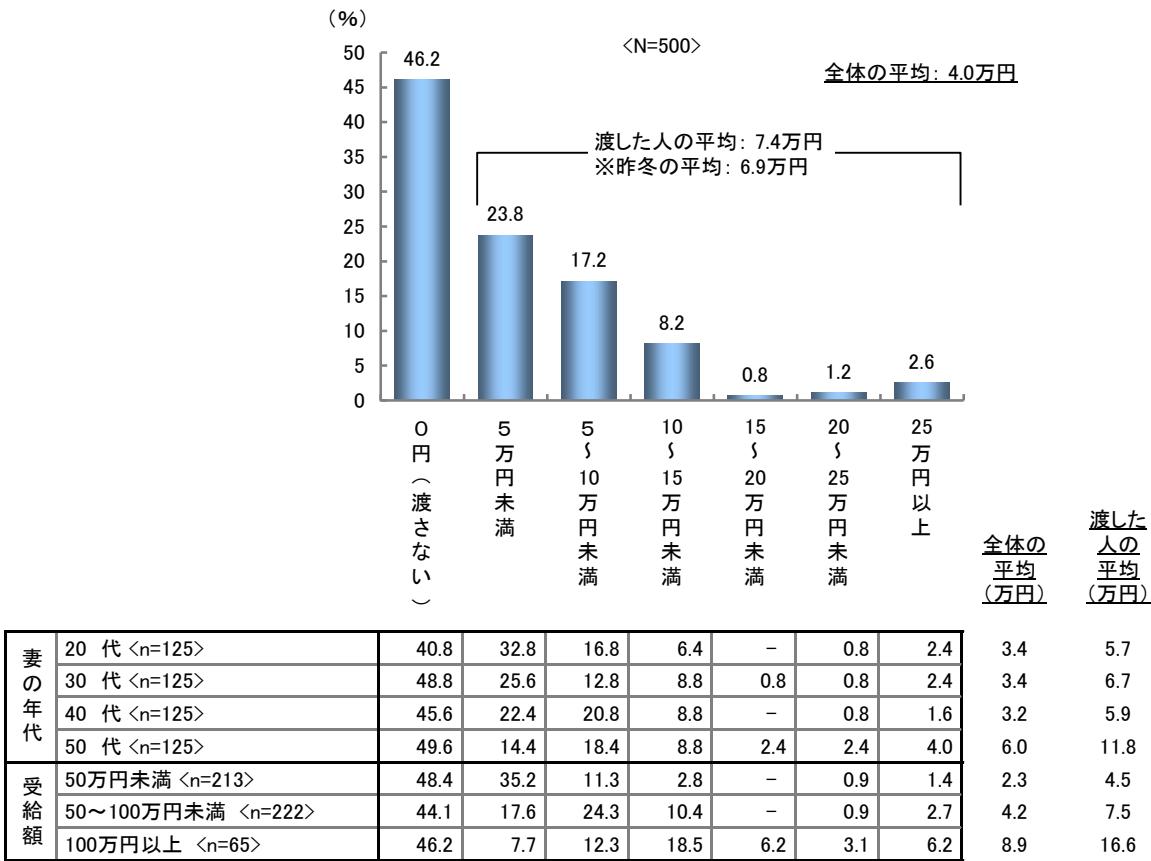
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額

「0円（渡さない）」が半数近く(46.2%)。

“渡した(渡そうと思っている)”人では、「5万円未満」(23.8%)、「5～10 万円未満」(17.2%)、「10～15 万円未満」(8.2%)などの順で、“渡した”人の平均は「7.4 万円」。

◆「0円（渡さない）」とした人の理由は、「必要な時にはその都度渡しているので」(37.2%)、「毎月お小遣いを渡しているので」(29.9%)、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」(23.4%)など。

図 7. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞きました。

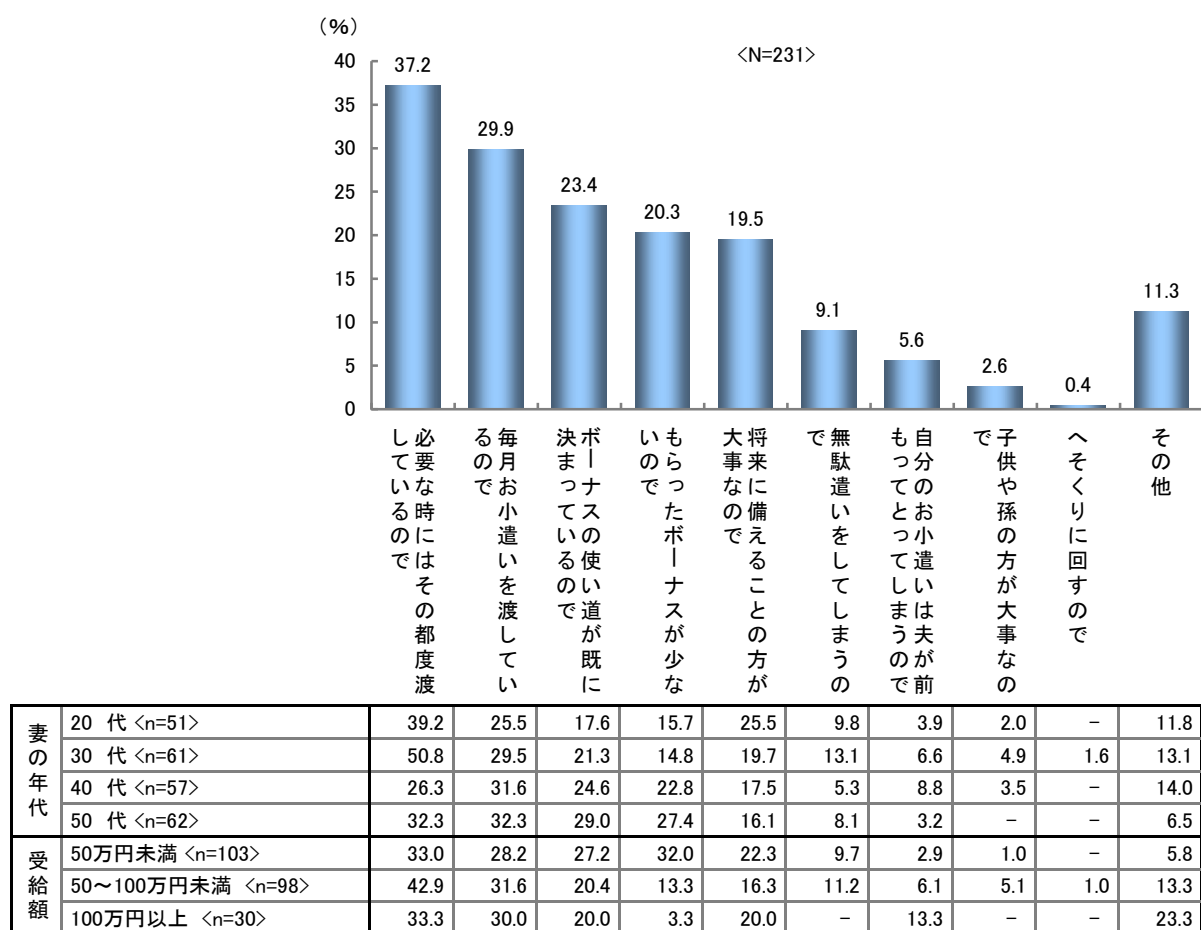
「0円（渡さない）」が半数近く(46.2%)を占めており、家計を預かる主婦の財布の紐の堅さがうかがえます。渡した人では、「5万円未満」(23.8%)、「5～10 万円未満」(17.2%)、「10～15 万円未満」(8.2%)などの順で、“渡した”人の平均は「7.4 万円」となっています。なお、「0円（渡さない）」も含めた全員の平均は「4.0 万円」です。

・妻の年代別に“渡した”人の平均金額をみると、《40 代》までは6万円前後ですが、《50 代》になると 11.8 万円と急に多くなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「0 円（渡さない）」(42.0%→46.2%)がやや増えていますが、渡した人の平均額は「6.9 万円」→「7.4 万円」と増えた結果、全体の平均は「4.0 万円」→「4.0 万円」と横ばいになっています。

図 8. 「渡さない」理由（複数回答）



「0円（渡さない）」と答えた人に、その理由を聞いてみたところ、「必要な時にはその都度渡しているの」（37.2%）、「毎月お小遣いを渡しているの」（29.9%）、「ボーナスの使い道が既に決まっているの」（23.4%）、「もらったボーナスが少ないの」（20.3%）、「将来に備えることの方が大事なの」（19.5%）などの順となっています。

- ・妻の年代別にみると、「毎月お小遣いを渡しているの」「ボーナスの使い道が既に決まっているの」「もらったボーナスが少ないの」などは年代が上の人ほど、「将来に備えることの方が大事なの」などは年代が下の人ほど高い割合となっています。
- ・ボーナス受給額別にみると、額が低い人ほど「もらったボーナスが少ないの」の割合は高く、《50 万円未満》（32.0%）の人では3割を超えています。一方、《100 万円以上》では、「自分のお小遣いは夫が前もってとってしまうの」（13.3%）が目立ちました。

6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

芸能界では「芦田愛菜」(62 件)、スポーツ界では「なでしこジャパン」(129 件)、その他の分野では「東日本大震災の被災地で活躍した人(自衛隊、ボランティアなど)」(10 件)、「東日本大震災の被災者」(9 件)などに臨時ボーナスをあげたい。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「東日本大震災の被災地で活躍した人(自衛隊、ボランティアなど)」(10,451 万円)、「嵐」(4,261 万円)、「東日本大震災の被災者」(3,470 万円)がトップ3。

2011 年後半に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（芸能人）

芸能人			平均 金額 (万円)	最高額 (万円)	
順位		件数			
1	芦田愛菜	62	127	1,000	※渡してあげたいボーナス金額は、 「万円」単位で5桁以内で回答 してもらった結果
2	嵐	25	4,261	99,999	
3	AKB48	11	635	5,000	
4	SMAP	7	3,304	10,000	
	鈴木福	7	18	100	
6	向井理	4	2,519	10,000	

まず、芸能界では、「芦田愛菜」(62 件)が突出して多く、以下「嵐」(25 件)、「AKB48」(11 件)、「SMAP」(7 件)、「鈴木福」(7 件)などが続いています。現在活躍中の子役俳優や歌手グループが多くなっています。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（スポーツ界）

スポーツ界				
順位		件数	平均 金額 (万円)	最高額 (万円)
1	なでしこジャパン	129	1,192	50,000
2	澤穂希	45	336	1,000
3	浅田真央	26	255	1,500
4	石川遼	7	93	100
	ダルビッシュ有	7	844	5,000
	福岡ソフトバンクホークス	7	664	3,000
	イチロー	7	494	1,000
8	落合博満	4	403	1,000

次いで、スポーツ界では、「なでしこジャパン」(129件)が圧倒的に多くなっています。2位もなでしこジャパンメンバーの「澤穂希」(45 件)で、日本が女子サッカーのワールドカップで優勝したことのインパクトが非常に強かったようです。以下、「浅田真央」(26 件)、「石川遼」(7 件)、「ダルビッシュ有」(7 件)、「福岡ソフトバンクホークス」(7 件)、「イチロー」(7 件)などの順となっています。

金額も、「その他」を除けば「なでしこジャパン」(平均 1,192 万円)が最も高い金額です。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他				
順位		件数	平均 金額 (万円)	最高額 (万円)
1	東日本大震災の被災地で活躍した人(自衛隊、ボランティアなど)	10	10,451	90,000
2	東日本大震災の被災者	9	3,470	10,000
	橋下徹	9	1,217	5,000
4	自分	6	37	100
5	枝野幸男	5	1,300	2,000

その他の分野では、「東日本大震災の被災地で活躍した人(自衛隊、ボランティアなど)」(10 件)、「東日本大震災の被災者」(9 件)、大阪市長選で話題を集めた「橋下徹」(9 件)などがあげられました。

表 5. <参考：総合得票・ボーナス金額（平均）トップ10>

順位		得票数
1	なでしこジャパン	129
2	芦田愛菜	62
3	澤穂希	45
4	浅田真央	26
5	嵐	25
6	AKB48	11
7	東日本大震災の被災地で活躍した人（自衛隊、ボランティアなど）	10
8	橋下徹	9
	東日本大震災の被災者	9
10	石川遼	7
	イチロー	7
	SMAP	7
	鈴木福	7
	ダルビッシュ有	7
	福岡ソフトバンクホークス	7

順位		平均金額 （万円）
1	東日本大震災の被災地で活躍した人（自衛隊、ボランティアなど）	10,451
2	嵐	4,261
3	東日本大震災の被災者	3,470
4	SMAP	3,304
5	向井理	2,519
6	枝野幸男	1,300
7	橋下徹	1,217
8	なでしこジャパン	1,192
9	ダルビッシュ有	844
10	福岡ソフトバンクホークス	664

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の第1位と比べると、

【芸能界】 「嵐」(41 件)→「芦田愛菜」(62 件)

【スポーツ界】 「石川遼」(55 件)→「なでしこジャパン」(129 件)

【その他】 「渡部陽一」(11 件)

→「東日本大震災の被災地で活躍した人（自衛隊、ボランティアなど）」(10 件)

と、いずれも入れ替わっています。

7. 今年の冬のボーナスを「川柳」にすると

「ボーナスは 通帳記入に なっただけ」、「昇進で なぜか下がった ボーナスが」、「ボーナスは 将来こわくて 使えない」など、受給額によって思いは様々。

表 6. 川柳に詠まれた主な内容

順位		件数	参考	
			昨冬の 順位	昨冬の 件数
1	家計のやりくりの大変さ	95	1	94
2	ボーナスの額を見てガッカリした気持ち	32	2	60
3	ボーナスが出ただけマシ	31	3	21
4	ボーナスが出たことへの感謝	24	5	18
5	使い道は貯蓄が最優先	22	3	21
6	世相を反映	19	—	—
7	夫への感謝の気持ち	15	7	11
8	ボーナスの額を見て喜んだ気持ち	14	7	11
9	今後のボーナスの不安	13	9	9
10	税金に泣く	9	—	—
11	使い道は旅行や食事	7	10	5

冬のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を作ってもらいました。

ボーナスをもらってもすぐに家計の穴埋めに消えてしまう「家計のやりくりの大変さ」(95 件)を詠んだものが非常に多く、次いで「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」(32 件)、「ボーナスが出ただけマシ」(31 件)と額の少なさを嘆くものや、「ボーナスが出たことへの感謝」(24 件)、「使い道は貯蓄が最優先」(22 件)、「世相を反映」(19 件)などが続いています。

実際に詠まれた川柳から代表例をあげると、以下の通りとなっています。

【家計のやりくりの大変さ】

- ・ボーナスを もらえどすでに 赤字なり (40 代・専業主婦)
- ・ボーナスを もらう前から 仕分け済み (40 代・専業主婦)
- ・ボーナスよ せめてひと冬 家にいて (50 代・有職主婦)
- ・ボーナスは 全部子どもに 消えていく (50 代・専業主婦)
- ・ボーナスで 少しも心 楽ならず (50 代・有職主婦)

【ボーナスの額を見てガッカリした気持ち】

- ・期待した ボーナスの額 見てトホホ (20 代・専業主婦)

- ・昇進で なぜか下がった ボーナスが (20代・専業主婦)
- ・ボーナス日 ボーナス払い 出来ないぞ (50代・有職主婦)
- ・ボーナスの もらう楽しみ もらうまで (50代・有職主婦)

【ボーナスが出ただけマシ】

- ・ボーナスを もらえるだけで ありがたい (20代・有職主婦)

【ボーナスが出たことへの感謝】

- ・一年の 労をねぎらう ボーナス日 (30代・専業主婦)
- ・ボーナスが 今年もあった ありがとう (50代・専業主婦)

【使い道は貯蓄が最優先】

- ・ボーナスは 通帳記帳に なっただけ (50代・有職主婦)
- ・ボーナスは 将来こわくて 使えない (30代・専業主婦)

【世相を反映】

- ・温暖化 冬のボーナス 寒冷化 (20代・専業主婦)
- ・ボーナスは 震災出費の 穴うめに (20代・専業主婦)

【夫への感謝の気持ち】

- ・ボーナス日 今日は寝ないで 待っている (30代・専業主婦)
- ・普段より 優しい私 ボーナス日 (20代・専業主婦)

【ボーナスの額を見て喜んだ気持ち】

- ・ボーナス額 予想外れて 大喜び (20代・専業主婦)
- ・通帳を ながめてようやく ほっとして (50代・有職主婦)

【今後のボーナスの不安】

- ・体肥え 年金ボーナス 先細り (50代・専業主婦)
- ・いつまでも あると思うな ボーナス日 (40代・有職主婦)

【税金に泣く】

- ・税金が 大半を占める ボーナスよ (30代・専業主婦)

【使い道は旅行や食事】

- ・やっと来た ボーナス 今日は焼肉だ (40代・専業主婦)

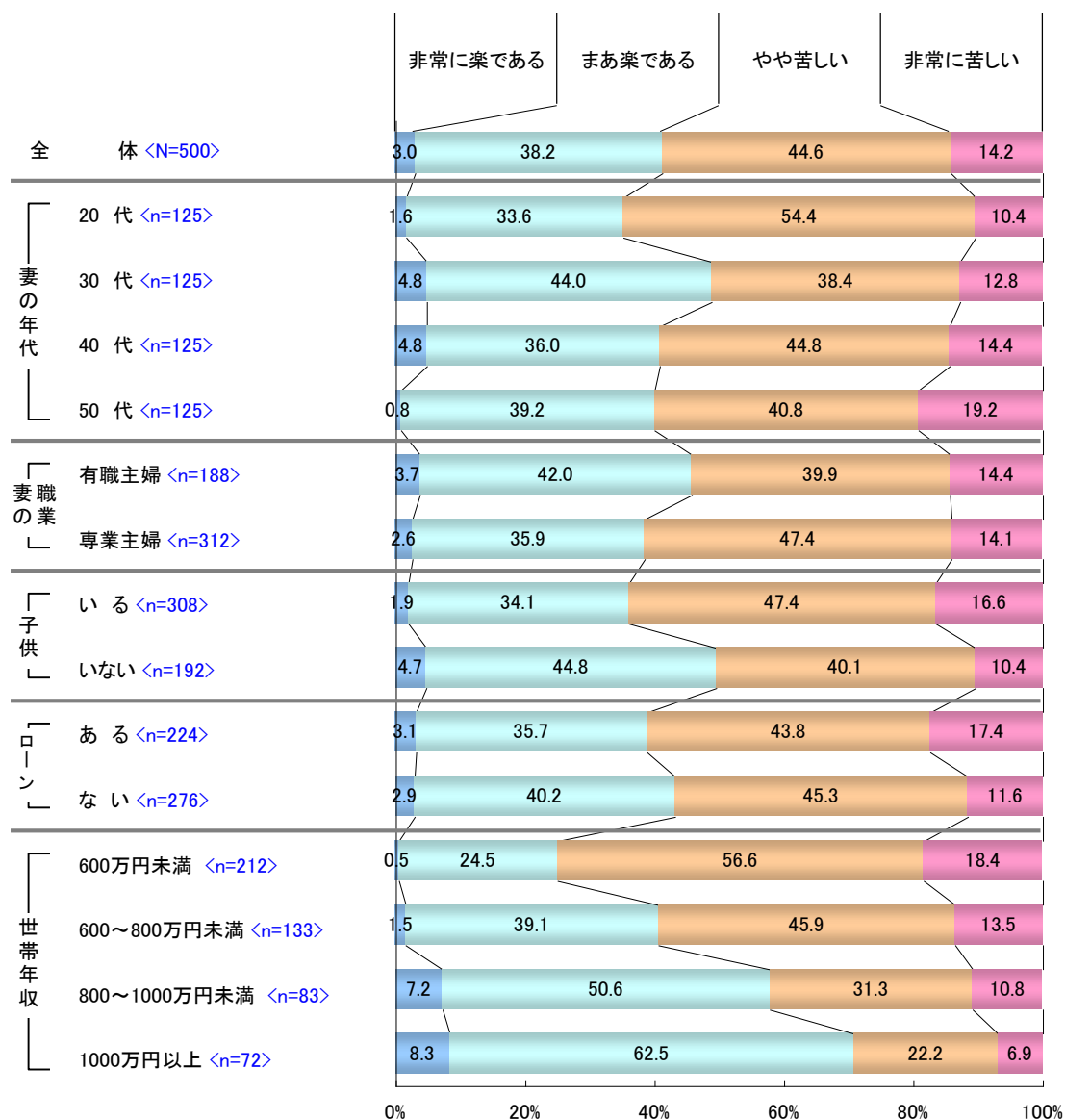
Ⅱ わが家の家計

1. 家計についての現状認識

“苦しい”(58.8%)が“楽である”(41.2%)を上回り、依然として“厳しい”という認識が強い。

※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 9. 家計についての現状認識



家計をやりくりしている主婦に、現在の家計について楽か苦しいかを聞いたところ、「非常に楽である」(3.0%)、「まあ楽である」(38.2%)を合わせた“楽である”(41.2%)は4割程度にとどまり、「やや苦しい」(44.6%)、「非常に苦しい」(14.2%)を合わせた“苦しい”(58.8%)という方が多くなっています。依然として家計は苦しい状況が続いているようです。

- ・妻の年代別にみると、《20 代》で“苦しい(非常に＋やや)”(64.8%)の割合がやや高くなっています。
- ・妻の職業別にみると、“苦しい”とする割合は《有職主婦》(54.3%)よりも《専業主婦》(61.5%)の方が高めです。
- ・独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、“苦しい”の割合は、子供が《いない》(50.5%) 場合よりも《いる》(64.0%) 場合の方が 10 ポイント以上高くなっています。
- ・世帯年収別にみると、年収が低くなるほど“苦しい”の割合が高く、《600 万円未満》(75.0%)と《1000 万円以上》(29.2%)とでは家計に対する認識に大きな差が生じています。

■昨冬の調査結果との比較■

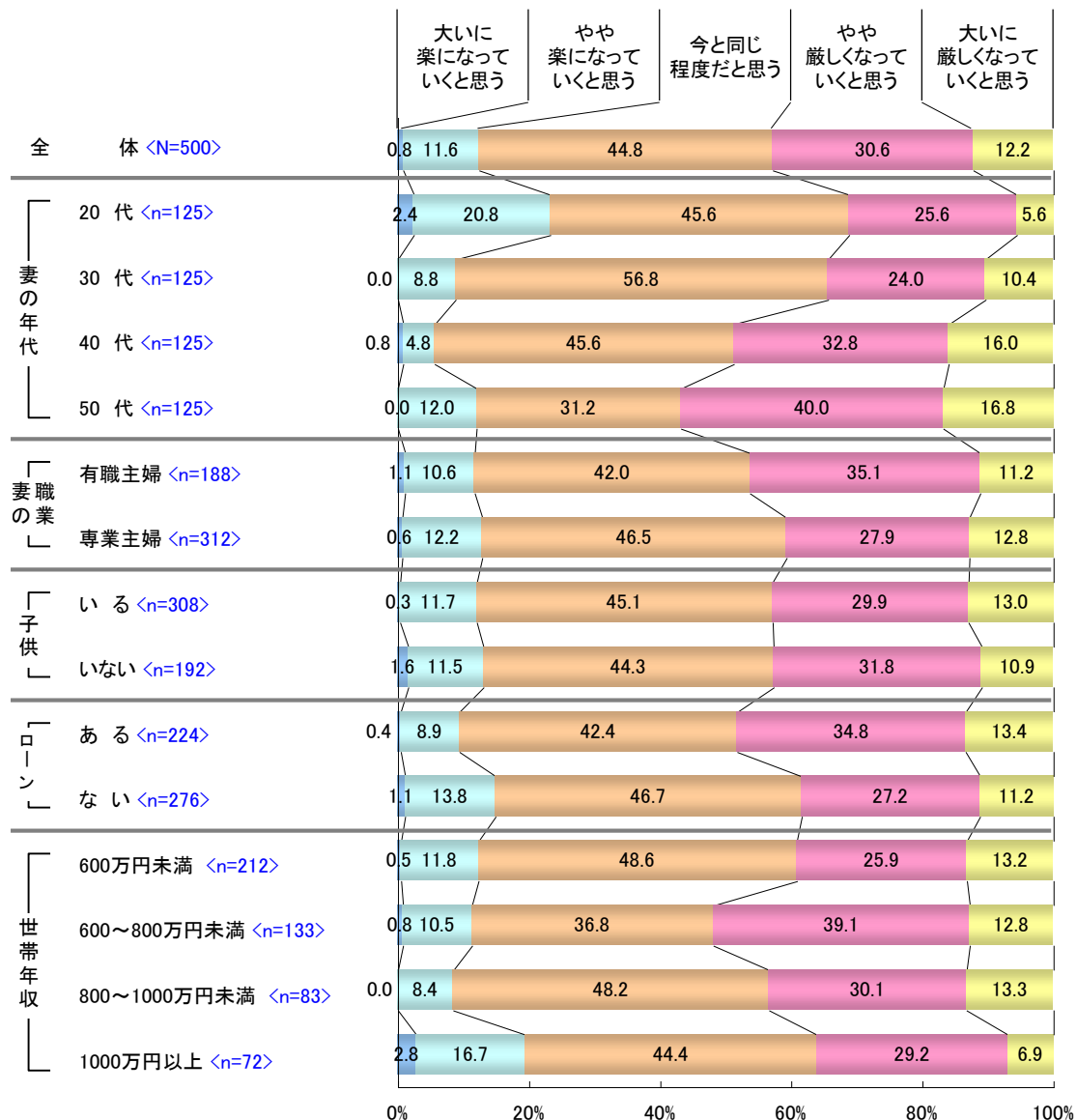
昨冬の調査結果と比べると、“楽である”(39.0%→41.2%)がわずかに増え、“苦しい”(61.0%→58.8%)がわずかに減り、わずかながら改善の方向に向かっているようです。

2. 今後の家計の見通しとその理由

“厳しくなっていく”(42.8%)が4割台を占め、“楽になっていく”(12.4%)は1割程度にとどまる。

※“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっていくと思う」「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“楽になっていく”は、「やや楽になっていくと思う」「大いに楽になっていくと思う」の合計を表します。

図 10. 今後の家計の見通し



次に今後の家計の見通しを聞いたところ、「大いに楽になっていくと思う」(0.8%)、「やや楽になっていくと思う」(11.6%)を合わせた“楽になっていく”(12.4%)は1割程度にとどまり、「やや厳しくなっていくと思う」(30.6%)、「大いに厳しくなっていくと思う」(12.2%)を合わせた“厳しくなっていく”(42.8%)という方ははるかに多くなっています。また、「今と同じ程度だと思う」(44.8%)は4割台で、今後の家計の見通しについては厳しい見方が多い結果となっています。

- ・妻の年代別にみると、若い年代になるほど厳しいとみており、“厳しくなっていく”とする人は《20 代》(31.2%)、《30 代》(34.4%)の3割台に比べ、《50 代》(56.8%)では半数を超えています。
- ・妻の職業別にみると、《専業主婦》よりも《有職主婦》の方が“厳しくなっていく”という見方がやや多くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、住宅ローンが《ない》人よりも《ある》人の方が、“厳しくなっていく”(順に 38.4%、48.2%)とする割合は高くなっています。
- ・世帯年収別にみると、600～1000 万円の世帯でやや悲観的な傾向がみとれます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、“楽になっていく”(13.0%→12.4%)、“厳しくなっていく”(44.0%→42.8%)ともにほとんど動きがなく、厳しい状況は続くという見通しとなっています。

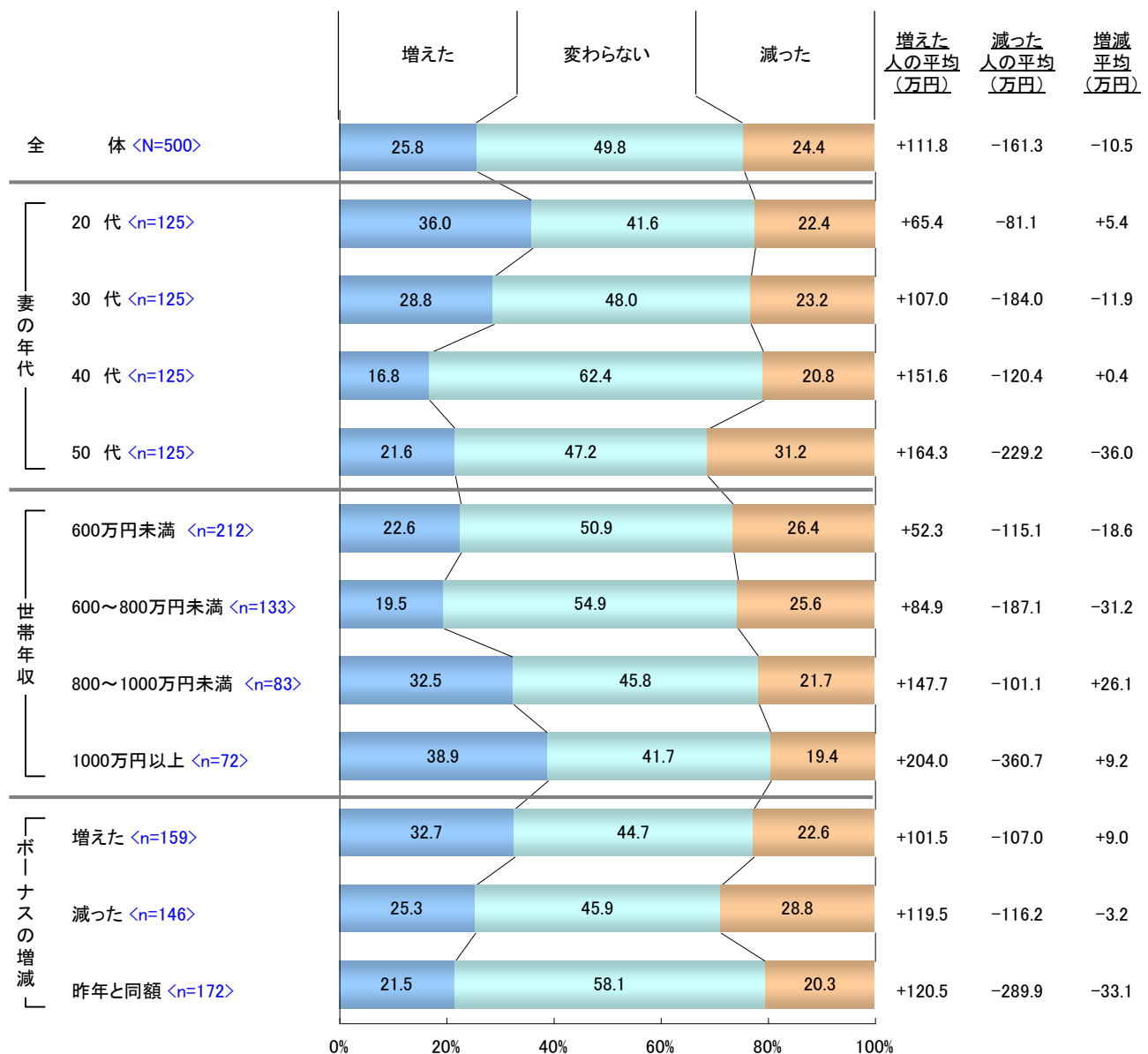
3. 世帯の金融資産の増減

「変わらない」がほぼ半数(49.8%)を占め、「減った」(24.4%)を加えた“増えなかった人”が7割を超える。

◆「増えた」金額は、平均「111.8 万円」、「減った」金額は、平均「161.3 万円」。全体では「-10.5 万円」とやや減。

◆「増えた」理由は、「毎月貯金したから」(64 件)、「ボーナスを貯金したから」(15 件)、「節約したから」(12 件)など、「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」(35 件)、「投資・株に失敗したから」(19 件)、「住居の購入・改築をしたから」(14 件)など。

図 11. 世帯の金融資産の増減



世帯の預貯金や運用などを合わせた「金融資産の残高」(不動産や夫に内緒の資産は含まない)は今年1年で増えたか、減ったかをみると、「変わらない」がほぼ半数(49.8%)を占め、「減った」(24.4%)を加えた“増えなかった人”が7割を超えています。

なお、増減額を見ると、「増えた」人の平均増加額は「111.8 万円」、「減った」人の平均減少額は「161.3 万円」となっています。また、全体の増減額の平均は、「-10.5 万円」です。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど世帯の金融資産は増えている傾向があり、《20 代》では「増えた」(36.0%)が「減った」(22.4%)より 10 ポイント以上高い割合ですが、《50 代》では逆に「増えた」(21.6%)よりも「減った」(31.2%)の方が 10 ポイント近く高くなっています。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が高いほど資産は増えている傾向にあり、《600 万円未満》の層では「増えた」(22.6%)よりも「減った」(26.4%)の方がやや多くなっていますが、《1000 万円以上》になると、「増えた」(38.9%)の方が「減った」(19.4%)よりも 20 ポイント近く高くなっています。
- ・ボーナスの増減別にみると、やはりボーナスが《増えた》という人の方が、《減った》人よりも、世帯の金融資産が「増えた」(順に 32.7%、25.3%)とする割合は高くなっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「増えた」(24.4%→25.8%)割合はあまり変わりませんが、「減った」(29.8%→24.4%)がやや減り、「変わらない」(45.8%→49.8%)がやや増えています。

表 7. 「増えた」理由（自由回答：件）

順位		件数
1	毎月貯金したから	64
2	ボーナスを貯金したから	15
3	節約したから	12
4	パート・副業で稼いだから	8
	臨時収入(祝い・宝くじ・遺産等)があったから	8
6	出費が減ったから	6
	給与が上がったから	6
8	子供が独立したから	4

「増えた」と答えた人に、その理由を自由回答で聞いたところ、「毎月貯金したから」(64 件)、「ボーナスを貯金したから」(15 件)、「節約したから」(12 件)、「パート・副業で稼いだから」(8 件)、「臨時収入(祝い・宝くじ・遺産等)があったから」(8 件)などとなっています。

表 8. 「減った」理由（自由回答：件）

順位		件数
1	子供の教育費に使ったから	35
2	投資・株に失敗したから	19
3	住居の購入・改築をしたから	14
4	冠婚葬祭に使ったから	10
5	趣味・レジャーに使ったから	9
6	生活費の穴埋めをしたから	8
	給与が下がったから	8
8	車を購入したから	7

「減った」と答えた人の理由をみると、「子供の教育費に使ったから」(35 件)が最も多く、以下「投資・株に失敗したから」(19 件)、「住居の購入・改築したから」(14 件)、「冠婚葬祭に使ったから」(10 件)などの順となっています。

表 9. 「変わらない」理由（自由回答：件）

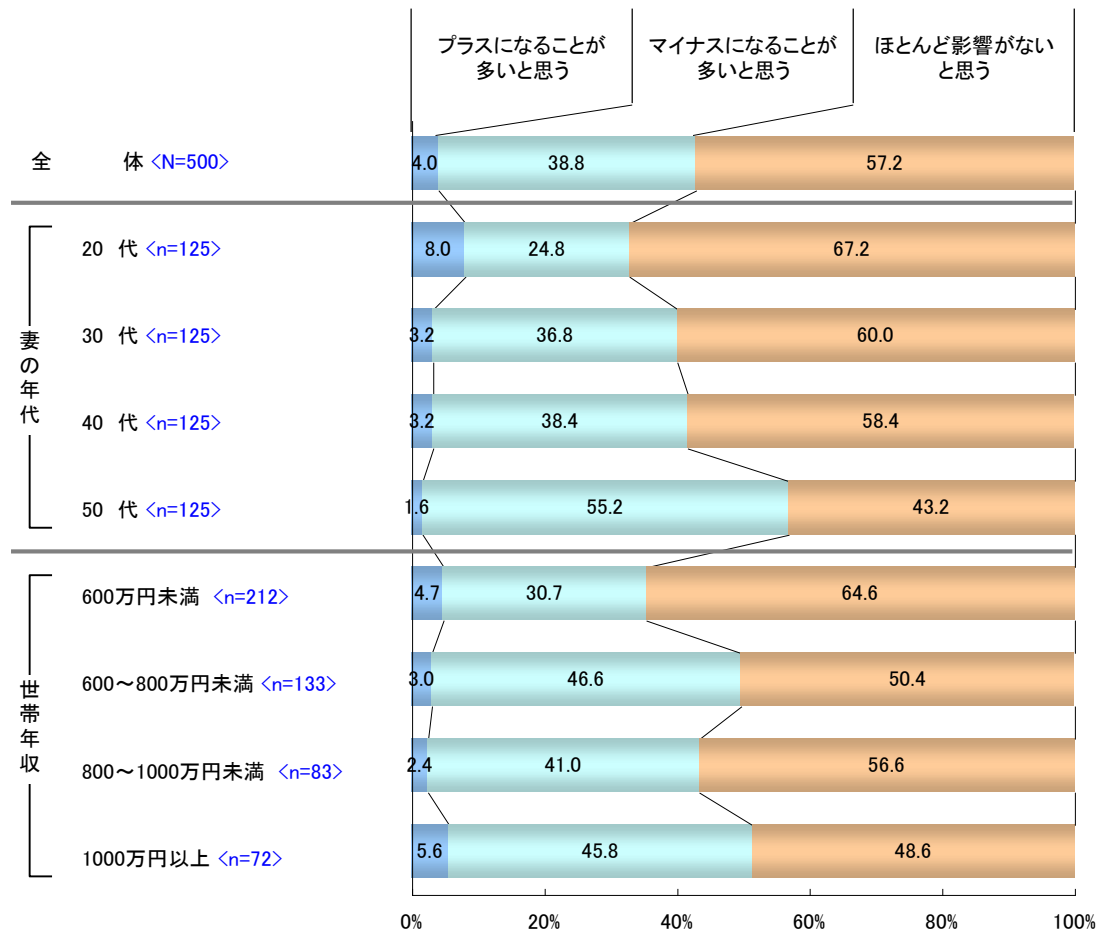
順位		件数
1	増やす余裕がないから	48
2	増やす気がない・手を付けないから	39
	生活に変化がないから	39
4	収支が同じくらいだから	24
5	貯めた分だけ使っているから	13
6	もともと金融資産はない	9
7	仕事をしていないから	7
8	ローンの繰上げ返済に充てるから	6

「変わらない」と答えた人の理由をみると、「増やす余裕がないから」(48 件)、「増やす気がない・手を付けないから」(39 件)、「生活に変化がないから」(39 件)、「収支が同じくらいだから」(24 件)などの順となっています。

4. 「円高」の家計への影響についてはどう思うか

「ほとんど影響がないと思う」(57.2%)が半数を超えるが、「マイナスになることが多いと思う」(38.8%)もかなりの割合を占める。

図 12. 来年もこのまま「円高」が続いた場合、家計への影響についてはどう思うか



来年もこのまま「円高」が続いた場合、家計への影響についてはどう思うか聞いてみたところ、「ほとんど影響がないと思う」(57.2%)が半数を超えていますが、「マイナスになることが多いと思う」も4割近く(38.8%)とかなりの割合を占め、「円高」の不安は小さくないようです。「プラスになることが多いと思う」(4.0%)という回答はわずかです。

- ・妻の年代別にみると、年代が上がるほど「マイナスになることが多いと思う」、年代が下がるほど「ほとんど影響がないと思う」が高くなる傾向が強くみられます。
- ・世帯年収別にみると、「600万円未満」の層で「マイナスになることが多いと思う」(30.7%)が少ないのが目立ちます。

表 10. 「マイナスになることが多いと思う」理由（自由回答：件）

順位		件数
1	夫の仕事に影響が出るから	61
2	円高でも物価は下がらないから	24
	景気が悪くなるから	24
4	給与が下がるから	22
5	外貨預金しているから	20
6	株価が下がるから	13
7	投資で損失が出るから	9

「マイナスになることが多いと思う」と答えた人に、その理由を聞いてみると、「夫の仕事に影響が出るから」(61 件)が抜きん出て多く、以下「円高でも物価は下がらないから」(24 件)、「景気が悪くなるから」(24 件)、「給与が下がるから」(22 件)などの順となっていますが、「外貨預金しているから」(20 件)、「株価が下がるから」(13 件)、「投資で損失が出るから」(9 件)と、“利殖のマイナスになるから”という回答もみられます。

なお、サンプル数は少ないのですが、「プラスになることが多いと思う」と答えた理由をみると、「輸入品が安くなるから」(11 件)、「海外旅行しやすくなるから」(3 件)などとなっています。

Ⅲ わが家の生活防衛策

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

ほぼ半数(48.2%)が『夫に内緒の資産』を持っている。

◆内緒の資産を持っている人の平均額は、「376.1 万円」。目的は、「老後の備え」(42.7%)が最も多く、以下、「自分の趣味や買い物のため」(36.5%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(32.4%)などの順。

◆内緒の資産の原資は、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(56.0%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(39.0%)と“自分で働いて貯めた”お金という人が多い。

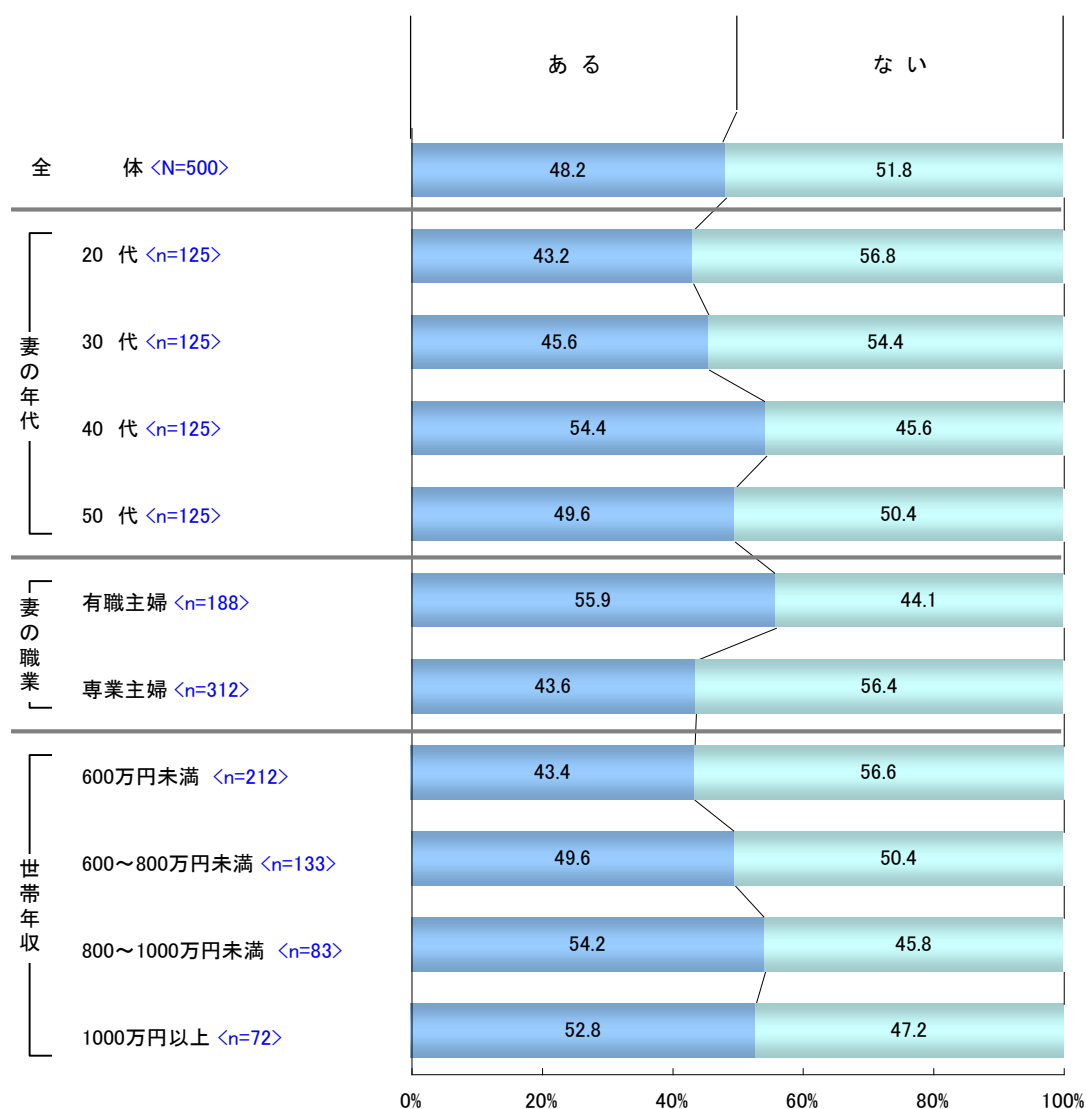
◆2011 年に入ってから増減は、「減った」(30.3%)が「増えた」(24.9%)よりやや多い。

◆増えた理由は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(38.3%)が最も多く、次いで「自分の収入や夫の収入が増えた」(30.0%)、「臨時収入があった」(18.3%)など。一方、減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(39.7%)、「臨時出費があった」(20.5%)など。

◆内緒の資産の今後の見通しは、“増えていくと思う”(36.1%)が“減っていく+なくなっていく”(31.1%)をやや上回る。“増えていくと思う”理由は、「地道に貯めているから」(34 件)、「働き始めた・まだ働くから」(18 件)、「節約しているから」(14 件)など。一方、“減っていくと思う”理由は、「生活費の穴埋めをしたから」(24 件)、「使う方が多いから」(17 件)、「子供の教育費にかかるから」(12 件)など。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない妻名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 13. 『夫に内緒の資産』の有無



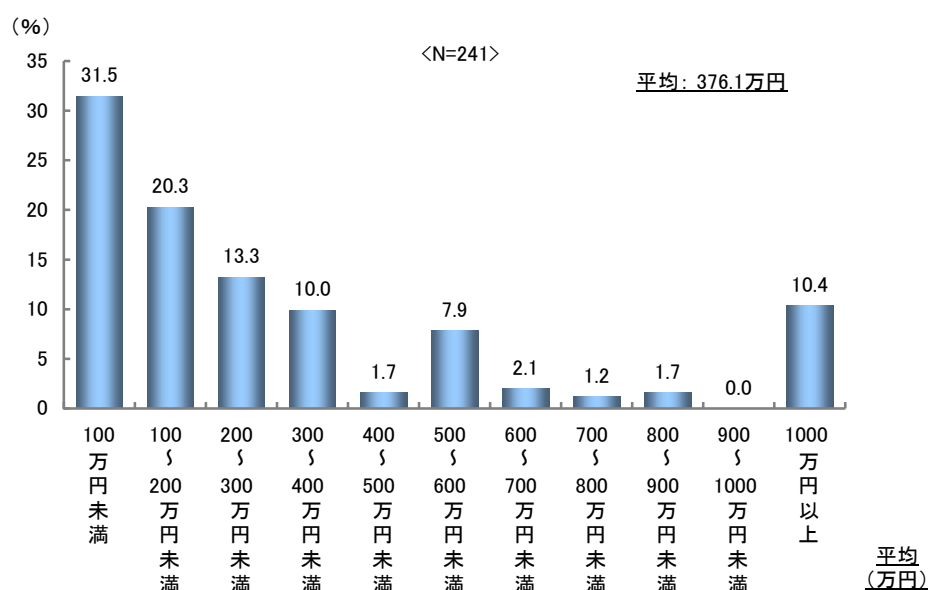
サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いたところ、ほぼ半数(48.2%)が「ある」と回答しています。

- ・妻の年代別にみると、保有率は《40代》(54.4%)が最も高くなっています。
- ・妻の職業別にみると、保有率は《専業主婦》(43.6%)よりも《有職主婦》(55.9%)の方が10ポイント以上高くなっています。現在も働いている人の方が、『夫に内緒の資産』を貯めやすいということなのでしょう。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が高くなるほど保有率も高い傾向がみられます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、保有者の割合は43.4%→48.2%と増加しています。

図 14. 『夫に内緒の資産』をいくらくらい持っているか



妻の年代	20代 <n=54>	55.6	25.9	11.1	3.7	-	-	3.7	-	-	-	-	103.1
	30代 <n=57>	28.1	22.8	12.3	7.0	5.3	12.3	-	3.5	-	-	8.8	328.6
	40代 <n=68>	25.0	20.6	14.7	13.2	-	5.9	4.4	-	2.9	-	13.2	440.7
	50代 <n=62>	21.0	12.9	14.5	14.5	1.6	12.9	-	1.6	3.2	-	17.7	586.9
妻職の業	有職主婦 <n=105>	25.7	19.0	13.3	11.4	1.9	6.7	2.9	2.9	1.9	-	14.3	452.1
	専業主婦 <n=136>	36.0	21.3	13.2	8.8	1.5	8.8	1.5	-	1.5	-	7.4	317.5
世帯年収	600万円未満 <n=92>	43.5	23.9	13.0	4.3	2.2	5.4	2.2	-	1.1	-	4.3	197.4
	600～800万円未満 <n=66>	28.8	24.2	12.1	12.1	1.5	6.1	1.5	1.5	1.5	-	10.6	440.3
	800～1000万円未満 <n=45>	20.0	17.8	15.6	13.3	-	13.3	-	2.2	2.2	-	15.6	484.0
	1000万円以上 <n=38>	21.1	7.9	13.2	15.8	2.6	10.5	5.3	2.6	2.6	-	18.4	569.7

『夫に内緒の資産』を持っている人にその金額を聞いたところ、「100 万円未満」が3割強 (31.5%) で最も多く、以下「100～200 万円未満」(20.3%)、「200～300 万円未満」(13.3%)、「1000 万円以上」(10.4%)、「300～400 万円未満」(10.0%)などの順で、100 万円未満が多いものの、分散しているようです。

資産保有者の平均額は「376.1 万円」です。

ちなみに、最高金額は「5000 万円」(3名)でした。

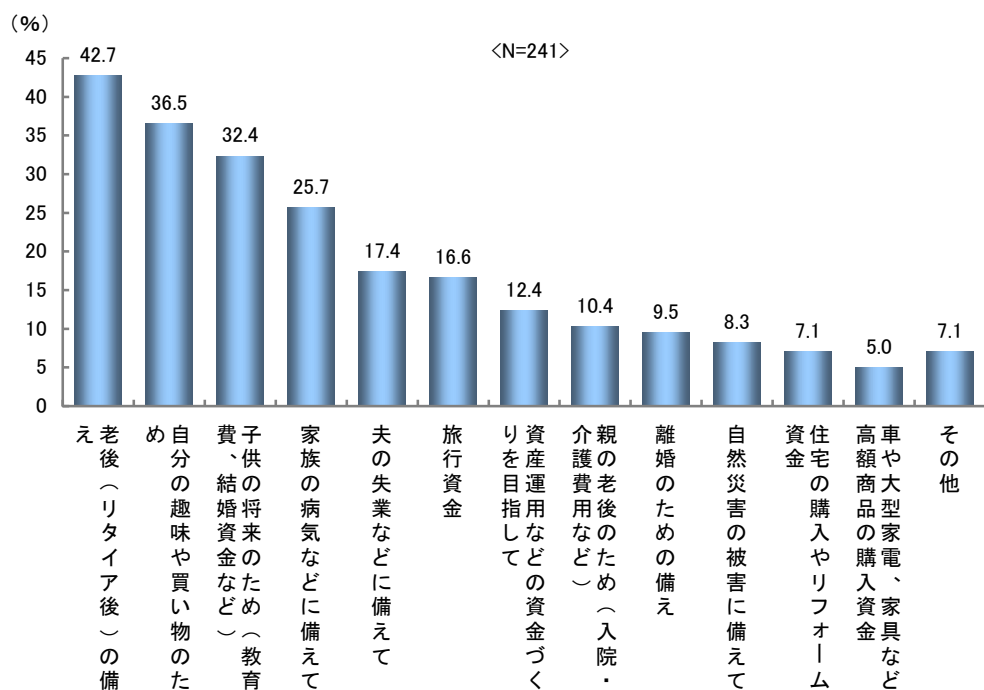
・妻の年代別に資産額の平均をみると、年代にともなって金額は高くなっており、《50 代》(586.9 万円)では《20 代》(103.1 万円)よりもはるかに多くなっています。

・妻の職業別にみると、平均は《有職主婦》(452.1 万円)が《専業主婦》(317.5 万円)を 100 万円以上上回っています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、平均所持率 (43.4%→48.2%)も増えていますが、平均金額も「308.3 万円」→「376.1 万円」とかなり増加しています。

図 15. 『夫に内緒の資産』を持つ目的（複数回答）



妻の年代	20代 <n=54>	24.1	40.7	33.3	25.9	16.7	7.4	9.3	13.0	9.3	3.7	11.1	7.4	13.0
	30代 <n=57>	33.3	35.1	38.6	22.8	22.8	17.5	10.5	10.5	7.0	12.3	10.5	7.0	5.3
	40代 <n=68>	50.0	35.3	35.3	25.0	20.6	13.2	16.2	7.4	11.8	10.3	4.4	4.4	5.9
	50代 <n=62>	59.7	35.5	22.6	29.0	9.7	27.4	12.9	11.3	9.7	6.5	3.2	1.6	4.8
妻の職業	有職主婦 <n=105>	44.8	34.3	27.6	27.6	19.0	22.9	11.4	11.4	12.4	7.6	5.7	4.8	8.6
	専業主婦 <n=136>	41.2	38.2	36.0	24.3	16.2	11.8	13.2	9.6	7.4	8.8	8.1	5.1	5.9
世帯年収	600万円未満 <n=92>	30.4	34.8	38.0	21.7	18.5	9.8	9.8	12.0	8.7	5.4	12.0	7.6	12.0
	600～800万円未満 <n=66>	39.4	33.3	36.4	25.8	18.2	18.2	12.1	6.1	9.1	10.6	3.0	1.5	1.5
	800～1000万円未満 <n=45>	55.6	28.9	20.0	35.6	20.0	22.2	17.8	11.1	8.9	11.1	6.7	4.4	8.9
	1000万円以上 <n=38>	63.2	55.3	26.3	23.7	10.5	23.7	13.2	13.2	13.2	7.9	2.6	5.3	2.6

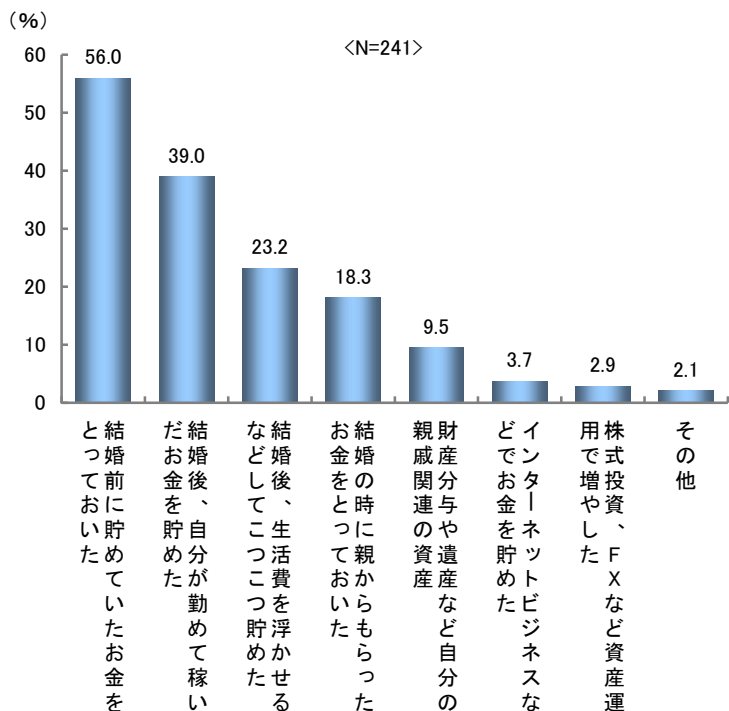
『夫に内緒の資産』をどのようなことに使うために持っているかをみると、「老後（リタイア後）の備え」が4割強（42.7%）で最も多く、以下「自分の趣味や買い物のため」（36.5%）、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（32.4%）、「家族の病気などに備えて」（25.7%）、「夫の失業などに備えて」（17.4%）、「旅行資金」（16.6%）、「資産運用などの資金づくりを目指して」（12.4%）、「親の老後のため（入院・介護費用など）」（10.4%）などの順となっています。

・妻の年代別にみると、「老後（リタイア後）の備え」は年齢が上の人ほど多く、《20代》（24.1%）では2割台ですが、《50代》（59.7%）では6割近い割合です。一方、《30代以下》で「住宅の購入やリフォームの資金」が目立ち、若い主婦がマイホーム資金づくりにいそしむ様子がうかがえます。

・妻の職業別にみると、「旅行資金」は《専業主婦》（11.8%）よりも《有職主婦》（22.9%）の方が多く、また、「離婚のための備え」も《専業主婦》（7.4%）よりも《有職主婦》（12.4%）の方が多くなっています。

・世帯年収別にみると、世帯年収が多い人ほど「老後（リタイア後）の備え」が多くなっており、一方、《800万円未満》では、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」の割合が高くなっています。

図 16. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



『夫に内緒の資産』をどのようにして得たかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(56.0%)が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(39.0%)が続き、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。

以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(23.2%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(18.3%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(9.5%)などが続いています。

表 11. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答：内緒の資産額別）

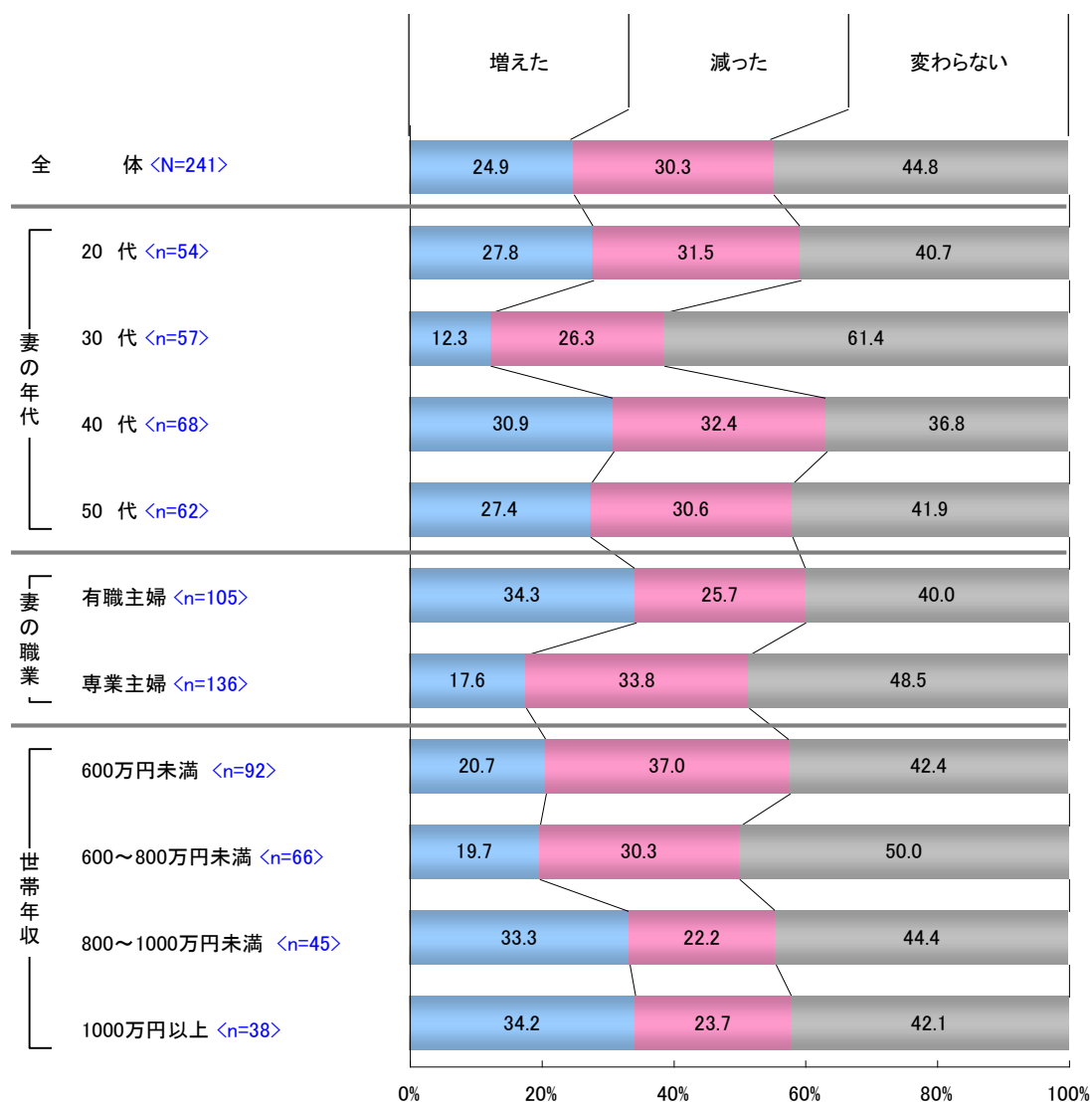
		(%)								
		サンプル数	と結婚前に貯めていたお金を	だ結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた	な結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた	お結婚の時に親からもらったお金をとっておいた	親財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産	どインターネットビジネスなどでお金を貯めた	用株式投資、FXなど資産運用で増やした	その他
全 体		241	56.0	39.0	23.2	18.3	9.5	3.7	2.9	2.1
内 緒 の 資 産	100万円未満	76	36.8	32.9	36.8	13.2	2.6	6.6	－	3.9
	100～200万円未満	49	57.1	34.7	10.2	16.3	6.1	2.0	－	－
	200～300万円未満	32	71.9	53.1	21.9	15.6	3.1	3.1	3.1	－
	300～500万円未満	28	71.4	32.1	14.3	28.6	17.9	3.6	－	3.6
	500～1000万円未満	31	64.5	51.6	25.8	22.6	25.8	3.2	6.5	－
	1000万円以上	25	64.0	40.0	16.0	24.0	16.0	－	16.0	4.0

・参考までに『内緒の資産額』別の傾向をみると、《100 万円未満》の人では「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(36.8%)、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(36.8%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(32.9%)がいずれも3割台で多いのに対し、《100 万円以上》の人では「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」がいずれも半数以上で、「結婚後、生活費を浮かせるなどして貯めた」は低い結果となっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(16.6%→23.2%)がやや増え、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(45.6%→39.0%)がやや減っています。

図 17. 2011 年に入ってから増減



2011 年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減を聞いたところ、「変わらない」(44.8%)が4割を超え、「減った」(30.3%)と「増えた」(24.9%)では「減った」がやや多くみられました。

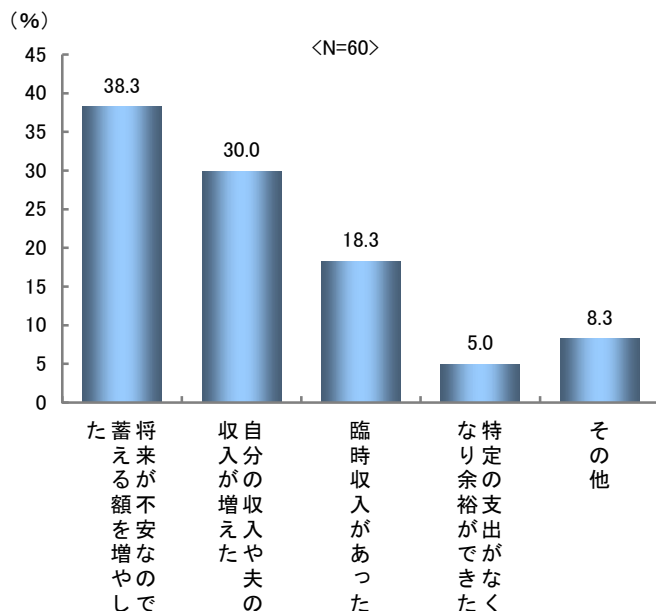
・妻の年代別にみると、「増えた」の割合は《30 代》(12.3%)で低いのが目立ちます。

- ・妻の職業別にみると、「増えた」割合は《有職主婦》(34.3%)では《専業主婦》(17.6%)のほぼ2倍で、やはり自分の仕事を持っている方が『夫に内緒の資産』も蓄積しやすいようです。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が多いほど「増えた」割合も高い傾向で、《600万円未満》(20.7%)、《600～800万円未満》(19.7%)の2割前後に比べ、《800～1000万円未満》(33.3%)、《1000万円以上》(34.2%)では3割を超えています。

■昨冬の調査結果との比較■

「増えた」(25.8%→24.9%)の割合はほとんど変わっていませんが、「減った」(37.3%→30.3%)はやや減り、「変わらない」(36.9%→44.8%)が増えています。

図 18. 『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由



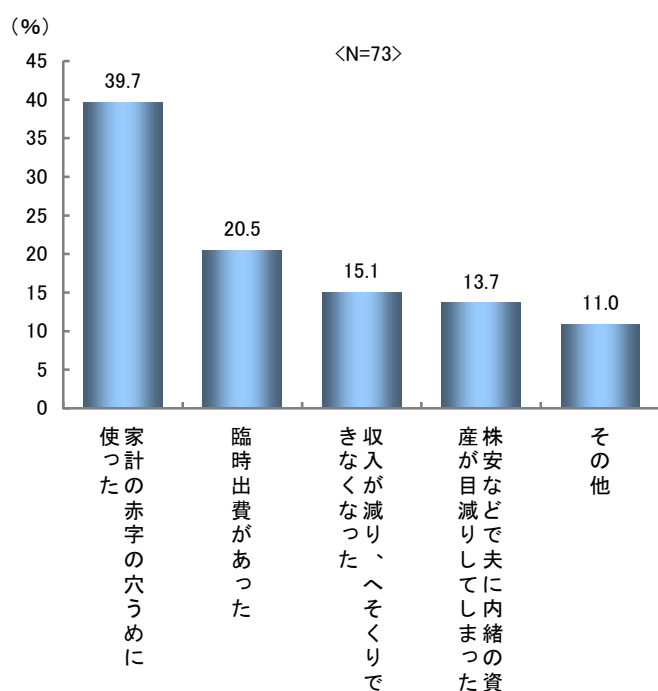
『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由をあげてもらったところ、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(38.3%)が最も多く、“意識的に増やした”ケースが多くなっています。以下、「自分の収入や夫の収入が増えた」(30.0%)、「臨時収入があった」(18.3%)など、“収入が増えた”という回答が続いています。

なお、「臨時収入があった」の具体的な内容としては、「遺産相続」「結婚祝い」「親からの小遣い」「保険の満期」などがあげられています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果も「将来が不安なので蓄える額を増やした」(50.0%→38.3%)がトップでしたが、回答率は大きく減りました。一方、「臨時収入があった」(7.1%→18.3%)は増えています。

図 19. 『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由



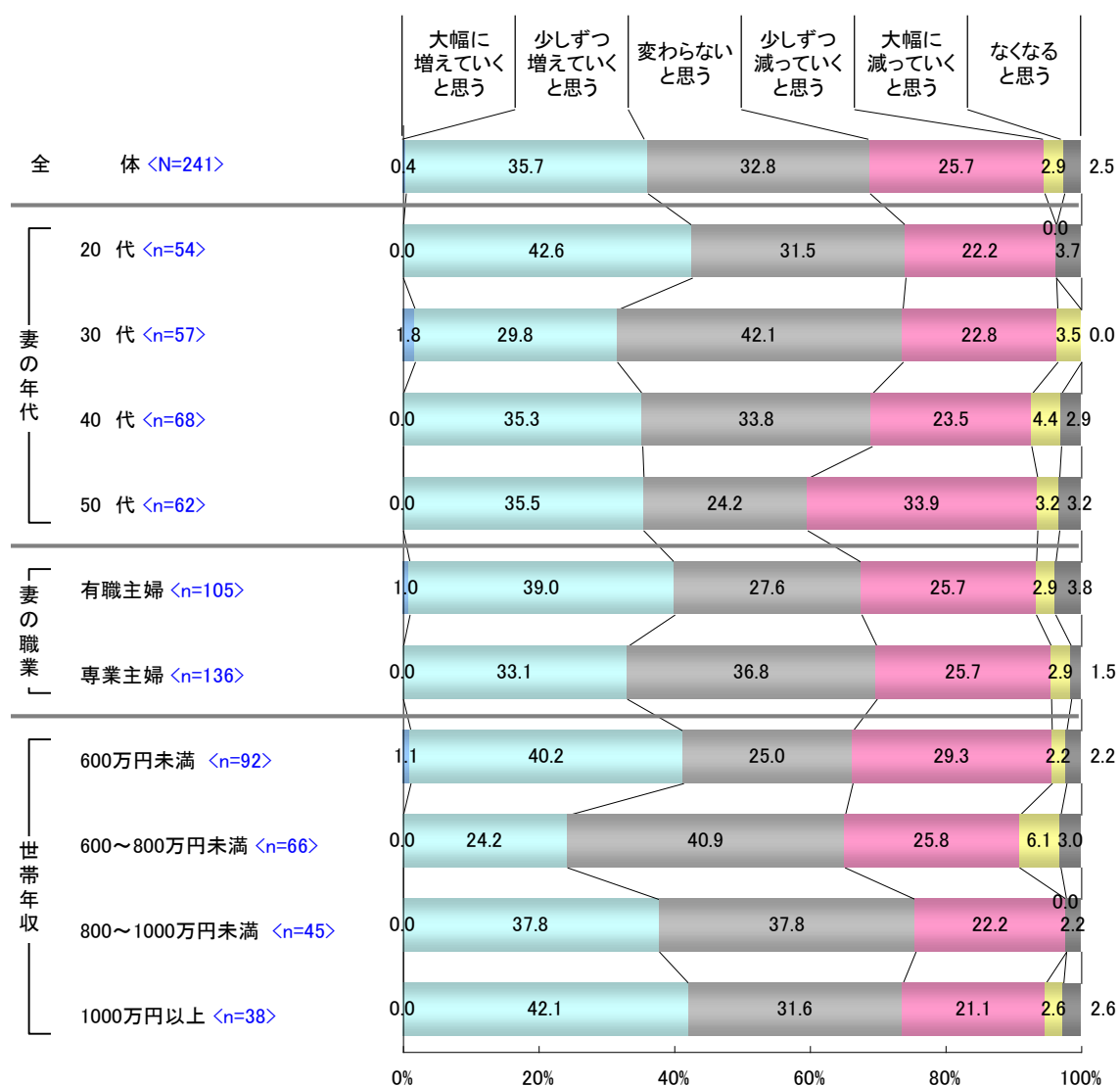
『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(39.7%)が最も多く、以下「臨時出費があった」(20.5%)、「収入が減り、へそくりできなくなった」(15.1%)、「株安などで夫に内緒の資産が目減りしてしまった」(13.7%)などの順となっています。

なお、「臨時出費があった」の具体的な内容としては、「海外旅行」「冠婚葬祭」「車の購入」「出産」「夫の借金返済」「母の入院」などがあげられています。

■昨冬の調査結果との比較■

今回は「収入が減り、へそくりできなくなった」(23.5%→15.1%)が減っています。

図 20. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している回答者に、今後の資産増減の見通しについて聞いたところ、「大幅に増えていくと思う」(0.4%)、「少しずつ増えていくと思う」(35.7%)を合わせた“増えていくと思う”が 36.1%で、「少しずつ減っていくと思う」(25.7%)、「大幅に減っていくと思う」(2.9%)、「なくなると思う」(2.5%)を合わせた“減っていく+なくなると思う”(31.1%)をやや上回っています。また、「変わらないと思う」も3割強(32.8%)います。

- ・妻の年代別にみると、あまり大きな差はありませんが、《50代》で“減っていく+なくなると思う”(40.3%)が他の年代に比べて多くなっています。
- ・世帯年収別にみると、《600～800万円未満》で“増えていくと思う”(24.2%)が少なくなっています。

表 12. 『夫に内緒の資産』が“増えていくと思う”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	地道に貯めているから	34
2	働き始めた・まだ働くから	18
3	節約しているから	14
4	投資などで増えそうだから	8
5	出費の予定がないから	5

『夫に内緒の資産』の見通しについてその理由を聞いてみました。

まず、“増えていくと思う”理由は、「地道に貯めているから」(34 件)が最も多く、以下「働き始めた・まだ働くから」(18 件)、「節約しているから」(14 件)、「投資などで増えそうだから」(8 件)などで、節約したり働いたり投資したり、さまざまな方法で増やしていることがうかがえます。

表 13. 『夫に内緒の資産』が“減っていくと思う”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	生活費の穴埋めをしたから	24
2	使う方が多いから	17
3	子供の教育費にかかるから	12
4	自分が働いていないから	11
5	趣味に使うから	4
	夫が退職・給与が下がったから	4

次いで、“減っていく＋なくなると思う”理由をみると、「生活費の穴埋めをしたから」(24 件)、「使う方が多いから」(17 件)、「子供の教育費にかかるから」(12 件)、「自分が働いていないから」(11 件)などとなっています。

表 14. 『夫に内緒の資産』が“変わらないと思う”理由（自由回答：件）

順位		件数
1	増やす気がない・手を付けないから	22
2	増やす余裕がないから	20
3	生活に変化がないから	8
4	自分が働いていないから	7
5	今は夫に知らせているから	5

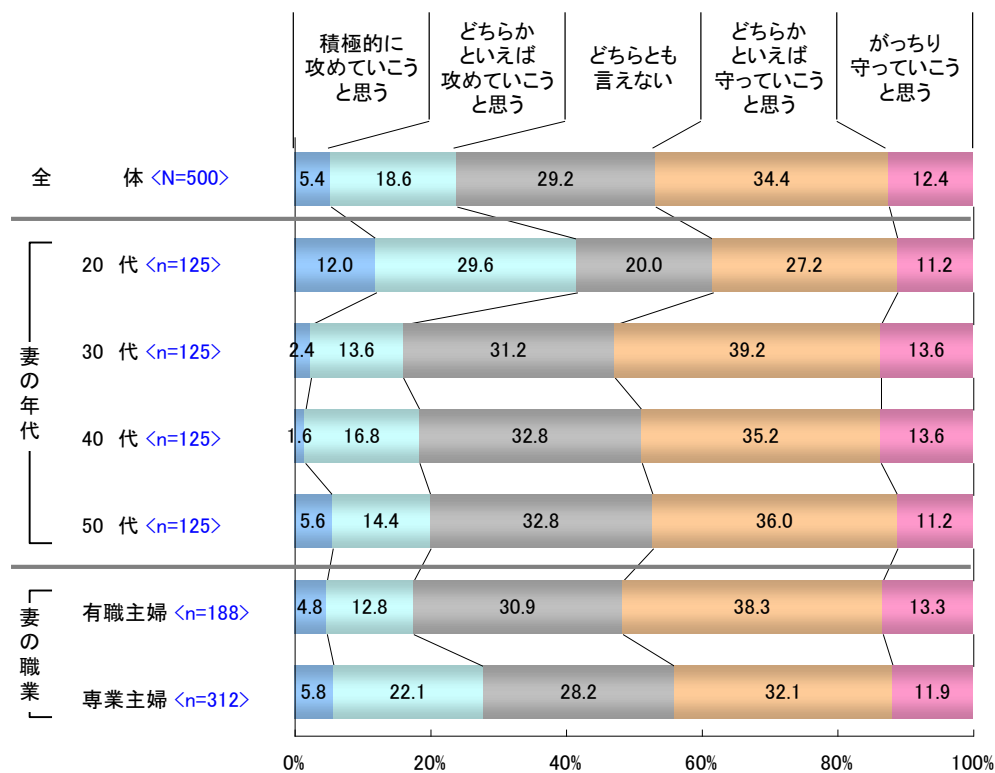
“変わらないと思う”理由は、「増やす気がない・手を付けないから」(22 件)と、“その気がない”という理由のほか、「増やす余裕がないから」(20 件)、「生活に変化がないから」(8 件)、「自分が働いていないから」(7 件)など、“やむを得ず”という理由も多くあげられています。

2. 2012 年の家計は“攻めていこう”と思うか、“守っていこう”と思うか

“守っていこうと思う”(46.8%)が“攻めていこうと思う”(24.0%)の2倍近い割合で、“守りの姿勢”が主。

※“攻めていこうと思う”は、「積極的に攻めていこうと思う」「どちらかといえば攻めていこうと思う」の合計、“守っていこうと思う”は、「がっちり守っていこうと思う」「どちらかといえば守っていこうと思う」の合計を表します。

図 21. 2012 年の家計に関して、財テクなど積極的に“攻めていこう”と思うか、儉約・節約をして“守っていこう”と思うか



2012 年の家計に関して、財テクなど積極的に“攻めていこう”と思うか、儉約・節約をして“守っていこう”と思うか、どちらの方針でいこうと思っているか聞いてみると、「積極的に攻めていこうと思う」(5.4%)、「どちらかといえば攻めていこうと思う」(18.6%)を合わせた“攻めていこうと思う”(24.0%)が2割台にとどまっているのに対し、「どちらかといえば守っていこうと思う」(34.4%)、「がっちり守っていこうと思う」(12.4%)を合わせた“守っていこうと思う”(46.8%)は4割台で、“攻めていこうと思う”の2倍近い割合です。

- ・妻の年代別にみると、“攻めていこうと思う”の割合は《20 代》(41.6%)で突出して高く、他の年代の2割前後に比べて差が目立ちます。
- ・妻の職業別にみると、“攻めていこうと思う”という割合は《有職主婦》(17.6%)よりも《専業主婦》(27.9%)の方が 10 ポイント以上高くなっています。《専業主婦》の方が、より積極的な家計方針を選ぶ傾向にあるようです。

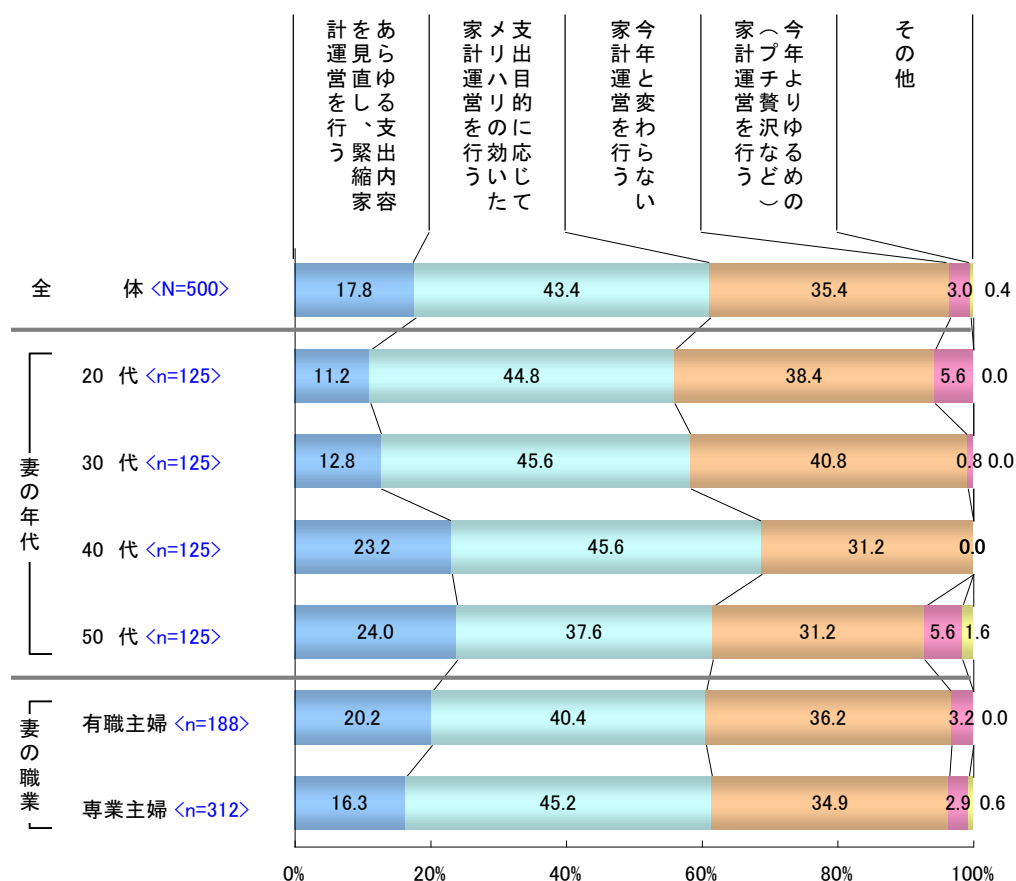
3. 2012 年の家計支出に関して、どんな方針で臨むか

「支出目的に応じてメリハリの効いた家計運営を行う」(43.4%)が最も多い。以下、「今年と変わらない家計運営を行う」(35.4%)、「あらゆる支出内容を見直し、緊縮家計運営を行う」(17.8%)の順で、「今年よりゆるめの(プチ贅沢など)家計運営を行う」(3.0%)と、家計をゆるめようという人はわずか。

◆見直したい点は、「なるべく家で食事をし、外食を控える」(86.0%)、「貯蓄を殖やす」(85.1%)、「通信販売を活用して必要なものを安く買う」(77.0%)、「家計簿をつける」(66.8%)など多岐にわたるが、「子供の教育費や習い事の費用を減らす」(11.0%)、「保険の見直し、解約をする」(30.6%)、「ローンの繰り上げ返済をする」(34.2%)などは少ない。

20 代主婦は、「貯蓄を殖やす」(95.7%)、「家計簿をつける」(81.0%)、「ローンの繰り上げ返済をする」(47.8%)など“攻め”の姿勢が強い。

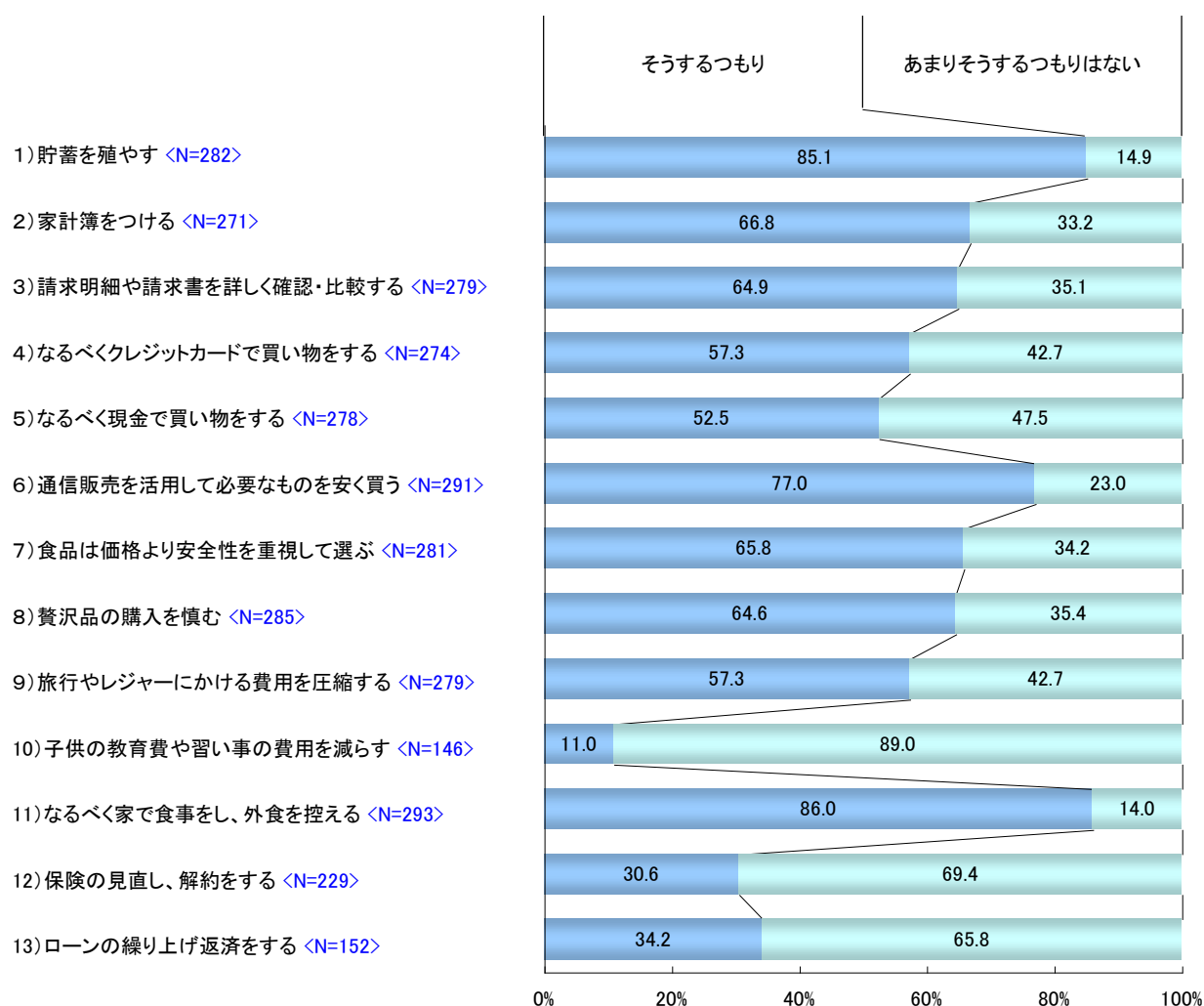
図 22. 2012 年の家計支出に関して、どんな方針で臨むか



2012 年の家計支出に関して、どんな方針で臨むつもりかをみると、「支出目的に応じてメリハリの効いた家計運営を行う」(43.4%)が最も多く、柔軟な姿勢で臨もうという意識が強くなっています。そのほかでは、「今年と変わらない家計運営を行う」(35.4%)が3割台で続きます。「あらゆる支出内容を見直し、緊縮家計運営を行う」(17.8%)と「今年よりゆるめの(プチ贅沢など)家計運営を行う」(3.0%)とでは前者の方が多く、家計をゆるめようという人はわずかのようです。

・妻の年代別にみると、「今年と変わらない家計運営を行う」は《20 代》(38.4%)と《30 代》(40.8%)、「あらゆる支出内容を見直し、緊縮家計運営を行う」は《40 代》(23.2%)、《50 代》(24.0%)が高い割合で、年代の高い主婦ほど緊縮家計を目指しています。

図 23. どのような点を見直したいか



「あらゆる支出内容を見直し、緊縮家計運営を行う」「支出目的に応じてメリハリの効いた家計運営を行う」と回答した人に対し、どのような点を見直したいか聞いてみたところ、「なるべく家で食事をし、外食を抑える」(86.0%)、「貯蓄を殖やす」(85.1%)の2項目が8割を超えているほか、「通信販売を活用して必要なものを安く買う」(77.0%)、「家計簿をつける」(66.8%)、「食品は価格より安全性を重視して選ぶ」(65.8%)、「請求明細や請求書を詳しく確認・比較する」(64.9%)、「贅沢品の購入を慎む」(64.6%)、「旅行やレジャーにかかる費用を圧縮する」(57.3%)、「なるべくクレジットカードで買い物をする」(57.3%)、「なるべく現金で買い物をする」(52.5%)までの10項目が半数以上となっています。

一方、「子供の教育費や習い事の費用を減らす」(11.0%)、「保険の見直し、解約をする」(30.6%)、「ローンの繰り上げ返済をする」(34.2%)の3項目は低い割合にとどまっています。

表 15. 「そうするつもり」の割合（属性別）

(%)

	1) 貯蓄を殖やす	2) 家計簿をつける	3) く請求明細や請求書を確認・比較する	4) ドなるべくクレジットカードで買い物をする	5) なるべく現金で買い物を	6) な通信販売を活用して必要	7) 重視して価格より安全性を	8) 贅沢品の購入を慎む	9) 費用を圧縮する	10) 旅行やレジャーにかける	11) 子供の教育費や習い事の費用を減らす	12) なるべく家で食事をし、	13) る保険の見直し、解約をする	すローンの繰り上げ返済を
割合(%)														
全 体	85.1	66.8	64.9	57.3	52.5	77.0	65.8	64.6	57.3	11.0	86.0	30.6	34.2	
妻の年代	20 代	95.7	81.0	68.8	49.2	65.6	83.6	60.7	66.2	64.1	10.0	91.0	40.4	47.8
	30 代	88.4	64.2	55.4	64.2	45.5	81.2	66.7	65.7	54.4	6.5	87.1	26.8	48.8
	40 代	75.0	62.2	67.1	59.0	49.4	70.9	72.7	60.3	57.9	11.9	82.9	26.2	26.7
	50 代	82.8	61.2	67.6	55.9	50.7	73.7	62.2	66.7	53.5	17.9	83.8	31.1	19.5
世帯年収	600万円未満	86.1	71.2	66.1	44.2	63.9	79.8	60.7	71.9	65.2	11.5	91.3	33.3	37.7
	600～800万円未満	88.5	68.4	71.6	63.6	51.9	78.3	63.4	60.2	54.9	13.0	83.3	28.8	44.7
	800～1000万円未満	79.1	63.4	56.8	65.0	46.3	63.6	76.2	57.1	47.7	5.0	86.4	29.7	23.8
	1000万円以上	82.1	51.5	55.6	78.4	23.7	80.0	75.0	59.0	50.0	10.5	74.4	26.7	13.0

・妻の年代別にみると、「貯蓄を殖やす」「家計簿をつける」は《20 代》(順に 95.7%、81.0%)で高い、「ローンの繰り上げ返済をする」は《20 代》(47.8%)、《30 代》(48.8%)で高い、といった違いがみられます。20 代は“攻め”の姿勢が強いと言えそうです。また、「なるべく現金で買い物をする」現金派は《20 代》(65.6%)に多く、「なるべくクレジットカードで買い物をする」クレジットカード派は《30 代》(64.2%)で多くなっています。

・世帯年収別にみると、「家計簿をつける」「なるべく現金で買い物をする」「贅沢品の購入を慎む」「旅行やレジャーにかける費用を圧縮する」「ローンの繰り上げ返済をする」などは年収の低い世帯ほど多くみられ、反対に「なるべくクレジットカードで買い物をする」「食品は価格より安全性を重視して選ぶ」などは年収の高い人ほど多くあげています。

4. この冬、食費を切り詰めるための節約食材、節約メニュー

節約食材は、「もやし」(240件)が最も多く、以下、「豆腐」(175件)、「ひき肉」(46件)、「鶏肉」(43件)、「卵」(41件)などの順。

節約メニューは、「鍋料理」(198件)が抜きんで多く、「野菜炒め」(73件)、「丼物」(58件)などの順。

表 16. この冬、食費を切り詰めるための節約食材、節約メニュー（自由回答：件）

順位		件数	順位		件数
1	もやし	240	6	納豆	38
2	豆腐	175	7	白菜	36
3	ひき肉	46	8	野菜	32
4	鶏肉	43	9	豚肉	23
5	卵	41	10	おから	18

この冬、食費を切り詰めるための節約食材は何か、自由回答で答えてもらったところ、最も多いのが「もやし」(240件)で、次いで「豆腐」(175件)が続いています。以下、「ひき肉」(46件)、「鶏肉」(43件)、「卵」(41件)、「納豆」(38件)、「白菜」(36件)、「野菜」(32件)などがあげられています。

表 17. この冬、食費を切り詰めるための節約メニュー（自由回答：件）

順位		件数	順位		件数
1	鍋料理	198	6	麺類(パスタ・焼きそば・うどん・ラーメン)	18
2	野菜炒め	73	7	煮物	17
3	丼物	58	8	麻婆料理(豆腐・もやし・春雨)	15
4	ハンバーグ	27	9	スープ・味噌汁	13
5	カレー	23	10	肉料理	14

次いで、食費を切り詰めるための節約メニューを自由回答で答えてもらった結果をみると、「鍋料理」(198件)が抜きんで多くなっています。以下、「野菜炒め」(73件)、「丼物」(58件)、「ハンバーグ」(27件)、「カレー」(23件)、「麺類(パスタ・焼きそば・うどん・ラーメン)」(18件)、「煮物」(17件)、「麻婆料理(豆腐・もやし・春雨)」(15件)などの順です。

Ⅳ 将来のことについて

1. 2012 年に活躍する、あるいは人気になると思われる「人」「もの」「場所」

「東京スカイツリー」(116 件)が圧倒的。以下、「なでしこジャパン」(30 件)、「東京スカイツリー周辺地域」(26 件)、「浅田真央」(15 件)などの順。

表 18. 2012 年に活躍する、あるいは人気になると思われる「人」「もの」「場所」(自由回答：件)

順位		件数
1	東京スカイツリー	116
2	ロンドンオリンピック	32
3	なでしこジャパン	30
4	東京スカイツリー周辺地域	26
5	浅田真央	15
6	東北地方	14
7	東京	13
8	大阪	12
	エコ・節約グッズ	12
10	ダルビッシュ有	11

2012 年に活躍する、あるいは人気になると思われる「人」「もの」「場所」を自由回答であげてもらったところ、「東京スカイツリー」(116 件)をあげる人が圧倒的に多くなっています。以下はかなり少なくなりますが、「ロンドンオリンピック」(32 件)、「なでしこジャパン」(30 件)、「東京スカイツリー周辺地域」(26 件)、「浅田真央」(15 件)などの順となっています。「東京スカイツリー」以外はスポーツに関するイベントや人が多くあげられています。

2. 2012 年のお金にまつわる「抱負や夢」

「貯金する」(115 件)が圧倒的に多く、以下、「節約・無駄遣いをやめる」(59 件)、「宝くじ当選」(44 件)など。

そのほか、「旅行」(28 件)、「パート・副業で稼ぐ」(26 件)、「金融市場の安定」(26 件)、「景気回復」(23 件)などがあげられている。

表 19. 2012 年のお金にまつわる「抱負や夢」(自由回答：件)

順位		件数
1	貯金する	115
2	節約・無駄遣いをやめる	59
3	宝くじ当選	44
4	旅行	28
5	パート・副業で稼ぐ	26
	金融市場の安定	26
7	ローン返済	23
	景気回復	23
	余裕のある生活	23
10	給与・ボーナスアップ	16
	政治の安定・改革	16

2012 年のお金にまつわる「抱負や夢」を自由回答で答えてもらった結果をみると、「貯金する」(115 件)が圧倒的に多くなっているほか、「節約・無駄遣いをやめる」(59 件)、「宝くじ当選」(44 件)、「パート・副業で稼ぐ」(26 件)といった“お金を得る”ことをあげる回答が多くなっています。そのほか、“お金を使う”こととして「旅行」(28 件)、そして「金融市場の安定」(26 件)、「景気回復」(23 件)といった“日本の経済状態の改善”をあげる回答もみられます。

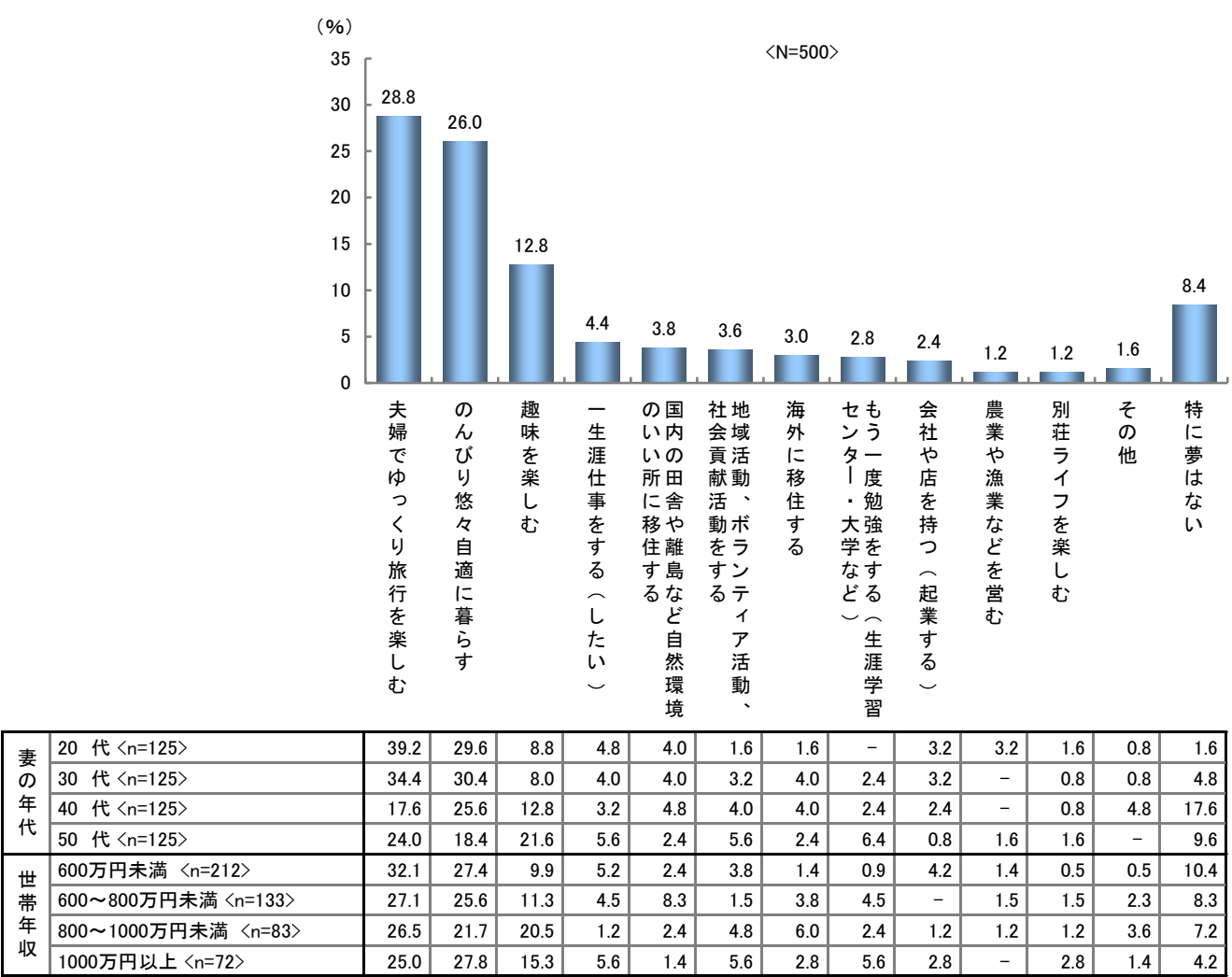
3. 夫がリタイアした後の「自分（妻）の夢」（最もしたいこと）

「夫婦でゆっくり旅行を楽しむ」(28.8%)、「のんびり悠々自適に暮らす」(26.0%)、「趣味を楽しむ」(12.8%)など。

◆その夢の実現のために必要だと思う金額は、「1000～2000 万円未満」(17.0%)、「500～1000 万円未満」(16.6%)、「2000～3000 万円未満」(15.3%)、「5000 万円以上」(14.0%)など、人によって差が大きい。平均は「2,193 万円」。

◆その夢の実現性は、「50～60%未満」(21.0%)、「10～20%未満」(16.4%)、「10%未満」(13.8%)などバラつきが多く、平均は「40.7%」。

図 24. 夫がリタイアした後の「自分（妻）の夢」（最もしたいこと）



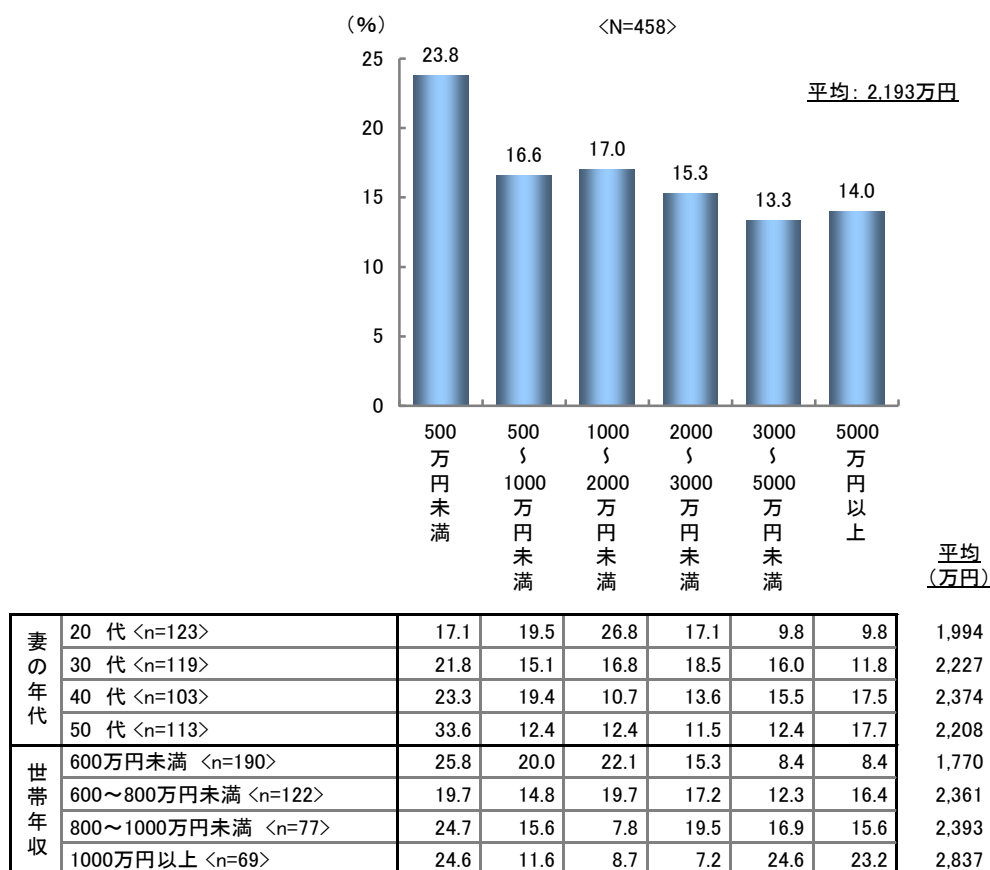
夫がリタイアした後の「自分(妻)の夢」(最もしたいこと)を1つだけあげてもらったところ、「夫婦でゆっくり旅行を楽しむ」(28.8%)と「のんびり悠々自適に暮らす」(26.0%)がともに2割台で多くなっています。次いで「趣味を楽しむ」が1割強(12.8%)で続き、「ゆっくりする」ことをあげる人が多くなっています。

そのほかはかなり少なくなりますが、「一生涯仕事をする(したい)」(4.4%)、「国内の田舎や離島など自然環境のいい所に移住する」(3.8%)、「地域活動、ボランティア活動、社会貢献活動をする」(3.6%)、「海外に移住する」(3.0%)などがあげられています。

なお、「特に夢はない」(8.4%)という人は1割未満で、大半の人は何らかの夢をあげています。

- ・妻の年代別にみると、「夫婦でゆっくり旅行を楽しむ」は《40 代》(17.6%)、《50 代》(24.0%)に比べて《20 代》(39.2%)、《30 代》(34.4%)で多くなっています。また、「趣味を楽しむ」は《50 代》(21.6%)で多くなっています。

図 25. その夢の実現のために必要だと思う金額



その夢の実現のためにいくらくらい必要だと考えているでしょうか。

「500 万円未満」(23.8%)が最も多くなっていますが、以下「500～1000 万円未満」(16.6%)、「1000～2000 万円未満」(17.0%)、「2000～3000 万円未満」(15.3%)、「5000 万円以上」(14.0%)、「3000～5000 万円未満」(13.3%)などがいずれも1割台で、人によってさまざまな結果となっています。平均は、「2,193 万円」です。

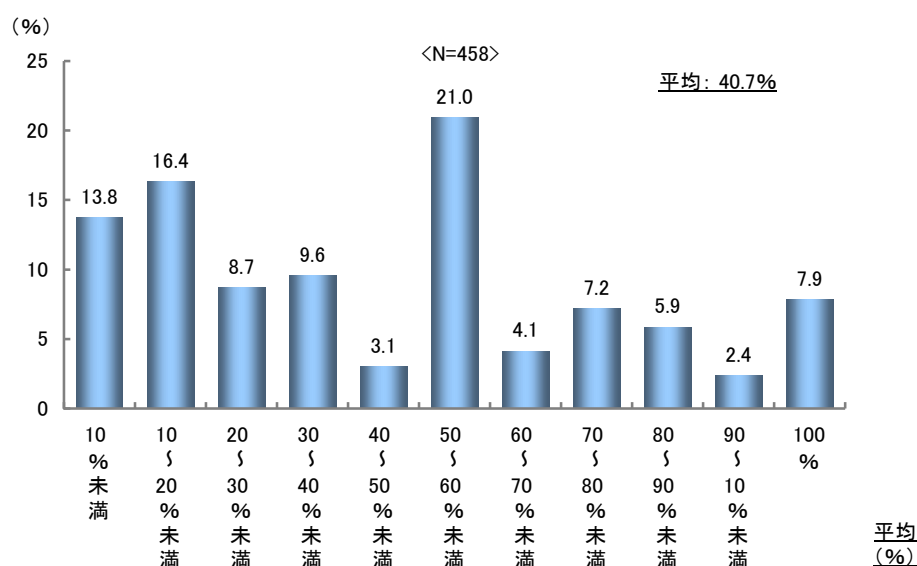
- ・妻の年代別にみると、年代が上がるほど「500 万円未満」の割合が高くなっていますが、「5000 万円以上」の割合も同じく年代が上がるほど高くなっており、年齢とともに格差が広がっています。
- ・世帯年収別にみると、「500 万円未満」の割合はあまり差がありませんが、「500～1000 万円未満」「1000～2000 万円未満」は世帯年収が低いほど、「3000～5000 万円未満」「5000 万円以上」は世帯年収が高いほど高い割合となっています。

表 20. 夫がリタイアした後の「自分（妻）の夢」（最もしたいこと）（その夢の実現のために必要だと思う金額別）
(%)

		サンプル数	夫婦でゆっくり旅行を楽しむ	のんびり悠々自適に暮らす	趣味を楽しむ	一生涯仕事をする（したい）	国内の田舎や離島など自然環境のいい所に移住する	地域活動、ボランティア活動、社会貢献活動をする	海外に移住する	もう一度勉強をする（生涯学習センター・大学など）	会社や店を持つ（起業する）	農業や漁業などを営む	別荘ライフを楽しむ	その他	特に夢はない
	全 体	500	28.8	26.0	12.8	4.4	3.8	3.6	3.0	2.8	2.4	1.2	1.2	1.6	8.4
必要額	1000万円未満	185	41.1	8.6	18.9	8.1	0.5	8.6	1.6	5.4	4.9	1.1	－	1.1	－
	1000～3000万円未満	148	27.7	37.2	12.8	2.7	8.1	0.7	2.7	1.4	0.7	2.0	2.0	2.0	－
	3000万円以上	125	21.6	47.2	8.0	2.4	4.8	0.8	6.4	1.6	1.6	0.8	2.4	2.4	－

・その夢の実現のために必要だと思う金額別に、前項の【夫がリタイアした後の「自分（妻）の夢」（最もしたいこと）】の割合をみると、「夫婦でゆっくり旅行を楽しむ」「趣味を楽しむ」は、必要と思う金額が低い人ほど多くなっています。一方、「のんびり悠々自適に暮らす」は必要と思う金額が高い人ほど多いという傾向が顕著です。

図 26. その夢の実現性



妻の年代	20代 <n=123>	10.6	14.6	3.3	13.8	6.5	17.9	5.7	9.8	4.1	1.6	12.2	45.4
	30代 <n=119>	9.2	16.8	12.6	8.4	0.8	23.5	4.2	5.0	9.2	2.5	7.6	42.4
	40代 <n=103>	18.4	18.4	10.7	5.8	1.9	22.3	4.9	5.8	4.9	2.9	3.9	35.5
	50代 <n=113>	17.7	15.9	8.8	9.7	2.7	20.4	1.8	8.0	5.3	2.7	7.1	38.4
世帯年収	600万円未満 <n=190>	16.3	18.4	4.7	13.7	2.6	21.6	3.2	7.4	3.7	1.1	7.4	37.6
	600～800万円未満 <n=122>	11.5	17.2	13.9	4.1	4.1	22.1	6.6	7.4	5.7	0.8	6.6	39.7
	800～1000万円未満 <n=77>	13.0	13.0	9.1	9.1	1.3	23.4	1.3	9.1	9.1	2.6	9.1	44.3
	1000万円以上 <n=69>	11.6	13.0	10.1	8.7	4.3	14.5	5.8	4.3	8.7	8.7	10.1	46.9
必要額	1000万円未満 <n=185>	12.4	18.4	10.3	7.6	2.7	18.9	3.8	6.5	8.1	2.2	9.2	41.6
	1000～3000万円未満 <n=148>	12.2	12.8	5.4	14.9	4.1	23.6	4.1	10.1	4.7	2.0	6.1	41.8
	3000万円以上 <n=125>	17.6	17.6	10.4	6.4	2.4	20.8	4.8	4.8	4.0	3.2	8.0	38.0

その夢の実現性は、「現在の貯蓄や資産」+「今後の貯蓄や資産運用、将来予想される退職金」などからみて何%くらいか聞いてみたところ、「50～60%未満」(21.0%)が最も多いものの、以下「10～20%未満」(16.4%)、「10%未満」(13.8%)、「30～40%未満」(9.6%)、「20～30%未満」(8.7%)、「100%」(7.9%)、「70～80%未満」(7.2%)など、非常にバラツキの多い結果となっています。平均は「40.7%」です。

- ・妻の年代別にみると、平均は《40代》(35.5%)、《50代》(38.4%)に比べ、《20代》(45.4%)、《30代》(42.4%)の若い年代の方が高くなっています。夫のリタイアの時期がまだ先のため、多少お金のかかる夢でも希望を持てるのかも知れません。
- ・世帯年収別にみると、やはり世帯年収が高いほど、実現可能性は高いとする割合が高い傾向がみられます。
- ・前項の“その夢の実現に必要なと思う金額”別にみると、あまり大きな差は生じていません。

表 21. 夫がリタイアした後の「自分（妻）の夢」（最もしたいこと）（その夢の実現性別）

(%)

	サンプル数	夫婦でゆっくり旅行を楽しむ	のんびり悠々自適に暮らす	趣味を楽しむ	一生涯仕事をする（したい）	国内の田舎や離島など自然環境のいい所に移住する	地域活動、ボランティア活動、社会貢献活動をする	海外に移住する	もう一度勉強をする（生涯学習センター・大学など）	会社や店を持つ（起業する）	農業や漁業などを営む	別荘ライフを楽しむ	その他	特に夢はない
全 体	500	28.8	26.0	12.8	4.4	3.8	3.6	3.0	2.8	2.4	1.2	1.2	1.6	8.4
実現性	30%未満	178	28.1	30.3	14.6	3.4	2.2	4.5	4.5	2.2	1.7	1.7	2.2	－
	30～60%未満	154	32.5	28.6	14.3	4.5	5.2	3.2	2.6	2.6	0.6	1.3	1.9	－
	60%以上	126	34.9	25.4	12.7	7.1	5.6	4.0	2.4	1.6	3.2	1.6	0.8	－

その夢の実現性別に、【夫がリタイアした後の「自分（妻）の夢」（最もしたいこと）】の割合をみると、「夫婦でゆっくり旅行を楽しむ」は実現性が高いと思う人ほど多くあげていますが、総じて大きな傾向の違いはありません。

なお、その%にした理由を自由回答であげてもらった結果をみると、実現性が《60%以上》の人では、「貯蓄・お金がある」「さほどお金のかかる夢ではない」「このくらい可能性はあってほしいという希望」、《30%未満》の人では、「貯蓄・お金がない」「将来の見通しが立たない」「子供の教育費にかかる」「ローン返済があるので」「夢に過ぎないので」といった回答が多くなっています。また、《30～60%未満》の人では、「将来のことは分からないから」「これからの努力次第だから」などとなっています。

それぞれの回答の具体例は、以下の通りです。

実現性【60%以上】

「貯蓄・お金がある」

- ・順調に貯金ができているから
- ・既にそのくらいの資産があるので
- ・現在の貯蓄と自分の退職金で賄えそう
- ・住宅ローンの支払いが終わっているの
- ・資産運用は得意なので

「さほどお金のかかる夢ではない」

- ・遠くに旅行ではなく近場を巡る程度でも構わないから
- ・生涯仕事を続けるのにお金は特にかからないので
- ・元々今でもその趣味をかじっているので実現しやすいと思った
- ・そんなにお金のかかることではないから
- ・人並みの生活をしていれば、出来る程度の夢と思っているので

「このくらい可能性はあって欲しいという希望」

- ・そうであって欲しいから

- ・そのくらい頑張ればという意気込み
- ・実現させるというやる気の問題だから
- ・私もがんばって働くので
- ・実現すると信じているから

実現性【30%～60%未満】

「将来のことは分からないから」

- ・将来のことは、わからないから
- ・退職金がいくらぐらいなのかわからないから
- ・年金がちゃんともらえるかわからないので
- ・今後の支出が不透明
- ・今後、子供が生まれた場合には計画が変わってくるから

「これからの努力次第だから」

- ・今からの努力次第
- ・これからの資産運用で左右されそう
- ・地道に貯金していけば実現できるかもしれないから
- ・旦那の頑張り次第

「自分が働けば実現できるかも知れないから」

- ・経済的な理由よりも、働き口があるか、自分が働ける体かの方が問題
- ・働ける所がみつかるかわからないから
- ・現状だとまず無理だけれど自分が働けば…という希望

「実現できるかどうか、微妙なところだから」

- ・半分ぐらい
- ・際どいところだから

実現性【30%未満】

「貯蓄・お金がない」

- ・生活が苦しくて貯蓄をする余裕が全くないから
- ・貯蓄は切り崩し、これから減る一方
- ・現在の預貯金では、夢の実現には程遠いので
- ・貯金も退職金も少ないので
- ・現在の収入から考えて難しい

「将来の見通しが立たない」

- ・色々と先行き不安だから
- ・この先、景気がどうなるかわからない
- ・まだまだ将来的な安定性が見えかねているので
- ・年金もどうなるかわからないので

- ・貯金はどの程度貯められるか見通しが立たない

「子供の教育費にかかる」

- ・これから先、子供の教育にお金がかかるので
- ・子供の学費や大学入学などにお金がかかるから
- ・4人の子供を育てるのに精一杯なので
- ・子供の独立までまだまだ長いので、老後の貯蓄なんて想像できない
- ・子供の将来のためにお金を残しておきたいので

「ローン返済があるので」

- ・ローンがたくさん残っている
- ・住宅ローンの返済が先
- ・ローンの支払いを考えると退職後も再就職しないと生活できない

「夢に過ぎないので」

- ・あくまでも夢に過ぎないので
- ・遠い夢だから
- ・夢のまた夢なので